

**官民連携型人材育成普及実証研究事業
報告書**

平成22年度

平成 23 年 3 月

**一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会
(エコツェリア協会)**

目次

報告内容

1. 業務概要	P3
2. 全体企画趣旨・企画目的	
2-1. 本事業を行う背景	P5
2-2. 全体実施計画	P6-14
2-3. 本事業を行う必要性	P15-17
2-4. 本事業効果予測	P18-19
2-5. 運営・連携事業者紹介	P20-22
3. 実施計画内容報告	
3-1. 第1回 沖縄事前ヒアリング・調査作業	P25-32
3-2. 第2回 沖縄事前ヒアリング・調査作業	P33-41
3-3. 第3回 東京・一般向け授業	P41-45
3-4. 第4回 現地開催	P45-54
4. 本事業を通しての効果と展望	
4-1. 各事業参加者のフィードバック	P56-67
4-2. 継続に向けた整理	P68-74
4-3. 必要な人材とは	P74-75
4-4. 本事業まとめ	P76
参考資料	P77-86

1. 業務概要

1. 請負概要

- | | |
|----------|--|
| 1. 請負業務名 | 平成22年度 官民連携型人材普及実証研究事業 |
| 2. 請負期間 | 平成22年6月28日～平成23年3月11日 |
| 3. 請負内容 | 地域力創造の基本である人材力を強化するためには、NPO、企業・地域団体などが実施している人材育成・交流に関するノウハウを他の地域や他の分野に移転することが効果的であるため、官民連携による人材育成の先進的事例について、そのノウハウの移転に係る実証実験を実施する。都市部において他地域の地域資源の発見・活用に係る人材育成のモデルを開発し、そのノウハウを他分野又は他地域へ移転することについて研究する。 |
| 4. 請負者 | 一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会
(エコツェリア協会) |

2. 全体企画趣旨・企画目的

2-1. 本事業を行う背景

地域活性化の重要な要素のひとつが人材力活性化だといえます。

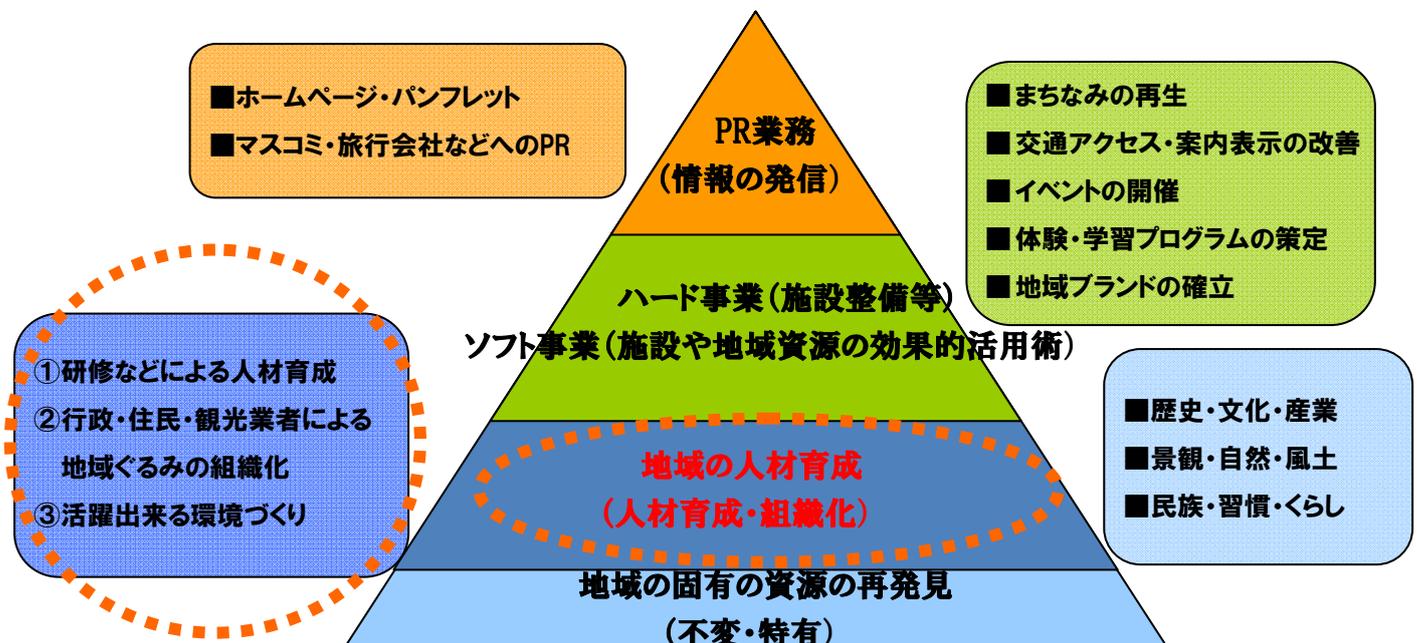
その人材力の活用として、既存の団体、枠組み、世代などのしがらみや既成概念を取り除き、あらゆる世代、あらゆる職種、あらゆる団体・グループが連携すること、そして、その地域の人々と共に、都市生活者、市民大学、NPOなどが関わることで、人材の交流、相互間のネットワークの構築もできるのではないか？という視点から、民間主導型の取組との連携による、地域人材力育成の広域的展開の実証的研究を行いました。今回の選定地沖縄県の特徴である、観光において必要な要素を下記にあげ、そのポイントを整理しました。また、その中で今回は、重要な要点のひとつである「人材育成」についてポイントを絞り、実証していきます。

＜地域活性における観光において必要な5つの要素＞

- ① PR業務 ②ハード業務 ③ソフト業務 ④地域の人材育成 ⑤地域の固有資源の再発見

「地域の人材育成」におけるポイント

- ①研修などによる人材育成 ②行政・住民・観光業者による地域ぐるみの組織化③活躍出来る環境づくり



2-2. 全体実施計画

上記の背景を元に既に都市部におけるプラットフォームとして成功をしている、市民大学「丸の内朝大学」の企画・運営・集客の仕組み・実績を用いて、都市と地域の交流プラットフォーム作りを目指します。

具体的には、観光地として圧倒的に人気が高い「沖縄県」と社会人向けコミュニティ形成型市民大学「丸の内朝大学」を活用した、①地域コミュニティづくり(受け入れ事業者)、②東京の地域コミュニティづくり(東京の観光所+東京の地方サポーター)、③地域再発見の仕組みの沖縄へのノウハウ移転、の3点を目的とします。

丸の内朝大学とは

東京駅の目の前の大手町・丸の内・有楽町地区で、平日の朝の就業前の時間帯に開催される市民大学。環境共生型のまちづくりを推進するエコツェリア協会が中心となり、朝型のライフスタイルを提案しています。

2006年秋より前身の「朝 EXPO in Marunouchi」がスタートし、2009年の春より街をキャンパスに見立てた「丸の内朝大学」へと進化。現在では、1期3ヶ月毎に、約22クラス、約750名以上の就業者、来街者が通っています。(2年間 12ヶ月でのべ2,604名が通う)

昨今の朝活ブームの火付け役でもあり、数多くのメディアからの注目も高く、様々な企業や省庁との連動したプログラムなどの開発も行ってきました。多くのクラスが、単なる座学型授業ではなく、実際にフィールドワークに行き「体験」し、三ヶ月という期間でコミュニティを形成します。またフィールドワークで地域を訪れることにより、都市生活者と地域との知的財産、人的交流等を図るきっかけ作りを担っています。



(丸の内朝大学の授業風景)

◆ 丸の内朝大学のこれまでの省庁連携実績

- ① 朝チャレキックオフイベント コーディネート(環境省 チャレンジ 25 プロジェクト)
- ② 農業クラス、カレークラス Food Action Nippon 推進
(農水省 Food Action Nippon アワード 2009 コミュニケーション・啓発部門優秀賞) 受賞)
- ③ 環境・ソーシャルプロデューサークラス 低炭素推進 (環境省 チーム・マイナス6%)
- ③ 地域プロデューサークラス 地域プロデューサー人材育成(経産省 ジャパンプロデューサーズプラットフォーム)



◆ 丸の内朝大学 広告換算

4億96百万円(2009年度)、8億20百万円(2010年度)



◆ 事業実施内容

地域の人材育成を行うに当たり、市民大学「丸の内朝大学」のノウハウを活かして、都市側（東京）、地域側（沖縄県）両側にて、コミュニティ形成プログラムや研修による人材育成等を実施し、事業実施後も両側でコミュニケーションが取れる関係を作ります。そこで、以下がポイントとしてあげられます。

〈Point〉

- ① 研修などによる人材育成
- ② 行政・住民・観光業者による地域ぐるみの組織化
- ③ 地域の人材が活躍出来る環境づくり

上記内容を進めるために、以下の取組を当事業で展開していきます。

・事業実施内容について

当事業は、都市側（「東京サイド」）と地域側（「沖縄サイド」）に区別し、それぞれのサイドに応じたコミュニティ形成プログラムや研修を実施することで、地域の人材育成を進めていきます。

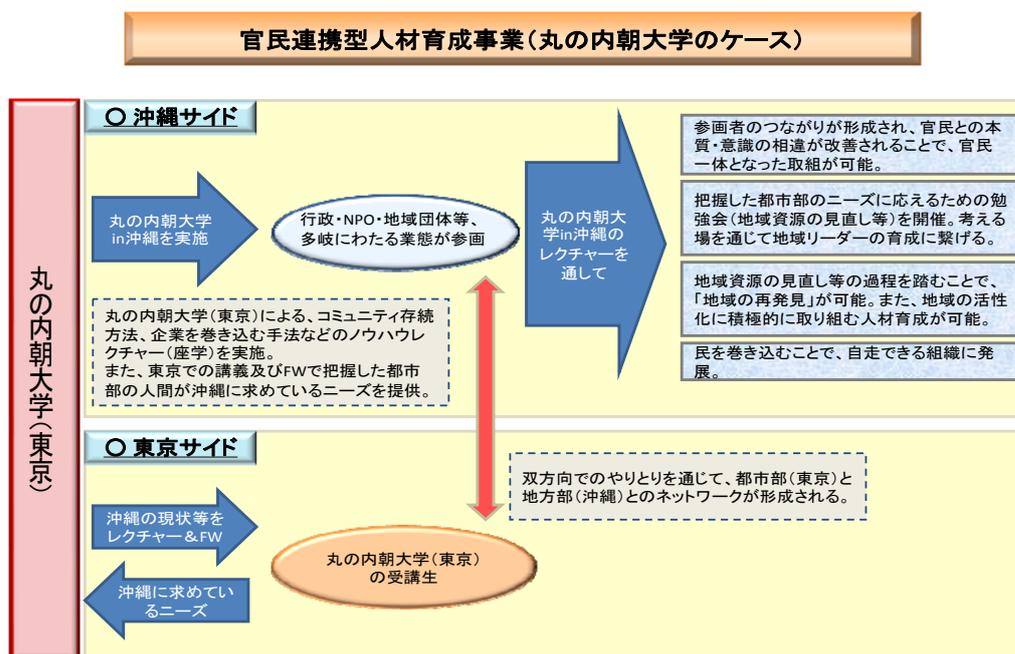
（東京サイド）

- ・丸の内朝大学秋学期に「ニッポン再発見シリーズ 沖縄編」を設置し、「学んでから旅に行く」という新しい旅の提案を行い、新しい都市生活者を開拓します。
- ・講義を行うことにより、地域側の講師が都市生活者にリアルな沖縄の情報を提供し、都市生活者のニーズをヒアリングすることが出来ます。また、どのような情報をどのように伝えることが出来るかを学ぶことが出来ます。
- ・講義を行う際に、行政、民間を問わず東京にいる沖縄関係者（沖縄県東京事務所職員等）にも参加を促し、受講生と東京にいる沖縄関係者のネットワークをつくることが出来ます。

（沖縄サイド）

- ・行政、民間に広く声がけをし、丸の内朝大学を通して、都市生活者の受入方法を考えるためのコミュニティを募る。
- ・地域側にて、地域資源の見直しを行い、その後企画・コンテンツの作り方、集客の仕方、PRの仕方等を一緒に考えます。
- ・都市生活者のニーズを学び、地域全体での受入体制をつくります。

丸の内朝大学が両サイドの「プラットフォーム」としての立場を担い上記の取組を展開することで、沖縄サイドにおいては、丸の内朝大学が有する「コミュニティ存続方法や企業を巻き込む手法などのノウハウ」の受け皿となり、当事業を通して沖縄サイドにおける官民様々な人材とのつながりの形成による取組が可能となることが期待されます。また、東京サイドにおいては、沖縄の現状等を事前学習し、事前学習で得た知識を実際のフィールドワークを通して体感することで、都市住民としての目線で沖縄の「今」を見つめることができ、そこから得られた「沖縄に求めるニーズ」を沖縄サイドに提供することが期待されます。



実施スケジュールについて

(沖縄 I)

□ 現地事業者への説明会と協力依頼

日時:2010年7月23日(金)~25日(日)

場所:沖縄県内全域

- 1日目 企業・団体説明会、ワークショップ実施(那覇市内)
- 2日目 現地視察、協力依頼(中南部)
- 3日目 現地視察、協力依頼(中北部)

講師:丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、

地域プロデューサークラス講師 本田勝之助

ナビゲーター: 沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

対象: 地元企業(観光事業者等)、観光行政関係者、教育関係者

目的: 朝大学沖縄クラスの開催概要説明から現地コミュニティ形成の協力企業を探す。

沖縄の官民連携の問題点を認識し、得意分野(マーケティング等)の解説を行う。

内容: 丸の内朝大学とは

- 1) 街づくりにおける丸の内朝大学の役割
- 2) 丸の内朝大学を実施するメリット
- 3) 会津若松市 丸の内朝大学地域プロデューサークラス連携事例紹介

内容と行程

1 日目

「沖縄県観光振興課・観光企画課」事業説明・協力依頼

「沖縄観光コンベンションビューロー」事業説明・協力依頼

「観光受入事業者と地元有識者」への事業説明会、フォーラム開催

上記関係者等との意見交換・交流会開催

2 日目

<現地説明・ノウハウ移転先の視察検討>

上記関係者等との意見交換・交流会開催

3 日目

<現地説明・ノウハウ移転先の視察検討>

(沖縄 II)

沖縄受入体制づくりと実施内容の検討

日時: 8 月上旬～9 月中旬

内容: 受入事業者(協力企業)との打合せから具体的なフィールドワークの内容案を決定する。

また 9 月実施の沖縄でのワークショップと視察内容を提案する。

担当: 沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

(沖縄 III)

□ 沖縄受入事業者向けワークショップの実施

日時:2010年9月9日(木)~11日(土)

場所:沖縄県立博物館・美術館 1F 講座室(美術館側)

- 1日目 那覇市内-朝大学ノウハウレクチャー・ワークショップ実施
- 2日目 現地視察-地域参画候補事業者・受入先の視察
- 3日目 現地視察-地域参画候補事業者・受入先の視察

講師:丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、
地域プロデューサークラス講師 本田勝之助、蔵谷学

受入:沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

対象:地元企業(観光事業者等)、観光行政関係者、教育関係者

目的:コミュニティスクールによる地域特性の生涯学習の意味づけ、演出、集客、コミュニティの存続方法、企業を巻き込む手法などのノウハウレクチャー(座学)を行う。地元キーマンと沖縄のポイントを巡りながら現状評価と課題点などを検証する、地域フィールドワークの実施。実際の受入側となることで、実施するプログラムを体験しながらその素材価値分析や活用手法の提案などを検討する。

内容:10月8日、15日に東京で開催する、「丸の内朝大学ニッポン再発見の旅シリーズ」の講義内容決定、11月21日、22日に実施する現地ツアーのプランニングのプレゼンテーション。
具体的な沖縄の地域素材を活用した、受入コンテンツを制作し、実際の受入体制などのイメージ、実際の現場を視察しながらプランの磨き上げを実践する。

1日目

「丸の内・朝大学の地域コミュニティづくりに関するノウハウレクチャー」

場所:沖縄県立博物館・美術館 1F 講座室(美術館側)

第一部:朝大学とは?朝大学を丸の内がやる理由、朝大学を通じた地域活性化とは?

丸の内朝大学(カリキュラム)で実践する取り組みもレクチャー。

第二部:「地域コミュニティ創造ワークショップ」(グループワーキング)

沖縄県とその地域で“観光・健康・環境・歴史文化”などのキーワードで
プロデュースされた取り組みを検討して立案するワークショップの実施。

第三部:プレゼンテーション・発表(各グループにわかれて)

講師総評・今後の取り組みを検討

2 日目

<プラン案実施&現地説明・視察>

- 09:00－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG－移動
- 10:00－「東村・慶佐次周辺」にてプログラム体験・・・リバーカヌー、サイクリング、ホースセラピー
- 12:00－「大宜味村・笑味の店」の視察と協力依頼・・・有機農業、長寿食料理体験
- 13:30－「国頭村・商工観光課」への協力依頼・・・11 月の受入協力依頼
- 15:00－「国頭村・ウフギー自然館」の視察・見学・・・環境省やんばる野生生物保護センター
- 17:00－「国頭村・楚洲あさひの丘」・・・館内の視察・取り組み説明
- 19:00－「地域関係者」との意見交換会・交流会開催
- 21:00－「ナイトツアー」体験・・・星空観察、ヤンバルクイナ観察

3 日目

<プラン案実施&現地説明・視察>

- 06:00－モーニングアクティビティ・・・早朝森林ウォーク、自然観察
- 07:30－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG(朝食時)
- 09:00－「国頭村・楚洲集落散策」の視察と協力依頼・・・地域の現状視察
「国頭村・体験プログラム」の視察と協力依頼・・・エコツーリズム、農業体験、海洋観察
- 13:00－「東村・カナナおきなわ」テレビ取材・・・NHK「クローズアップ現代」取材
会津若松市と沖縄の生産物を組み合わせてひとつのメニューを開発する、という
取材に地域プロデューサー紹介(本田勝之助、カナンファーム 依田啓示)
- 15:00－「名護市・津嘉山酒造所」の再視察と協力依頼・・・戦前赤瓦家建築、酒造技術

(東京 I・II)

- 丸の内朝大学 2010 秋学期「朝大学 Presents ニッポン再発見の旅シリーズ第1弾 沖縄編」
朝大学の受講生(30 名予定)を対象に、事前セミナー2 回+1 泊 2 日沖縄現地ツアー実施のク
ラスを設置する。

○クラス概要・コンセプト

丸の内朝大学ならではの「ニッポン再発見の旅シリーズ」では、知っているようで知らなかった日本の各地の魅力を事前にしっかり学んでから、その学んだ仲間と旅をするという、新しい旅の提案。第1弾は、沖縄。青い空、白い砂浜で楽しむ海のリゾートとして多くの人を魅了する沖縄ですが、もっともっと沖縄は奥が深い。環境、農業、地域、自然の遊び方、社会問題……。これまで丸の内朝大学で学んだ様々な分野の視点をもって旅をしてみると、色々なニッポンの再発見に出会える。

□事前セミナー

日時:2010年10月8日(金)、15日(金) 事前学習全2回

場所:東京丸の内 新丸ビル10F「エコツェリア」

講師:沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎、朝大学プロデューサー古田秘馬

目的:沖縄の地域プロデューサーが東京の参加者に直接講義を実施することにより、都市生活者のニーズを知り、確認する。参加者に沖縄サポーターになって貰うために新しい沖縄の魅力を伝えるプレゼンテーションの場とする。

内容:沖縄の人々と地域の魅力を再発見しながら、沖縄サポーターになる旅の仕方とは？

第1回:10月8日(金)「沖縄の新しい旅を提案する」

第2回:10月15日(金)「沖縄を地域プロデュースする」

(沖縄 IV)

□丸の内朝大学 2010 秋学期「朝大学 Presents ニッポン再発見の旅シリーズ第1弾 沖縄編」

日時:11月19日(金)~20日(土) (1泊2日)

場所:19日地域視察(中南部中心)、20日地域視察(中北部中心)

講師:沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

監修:丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、
地域プロデューサークラス講師 本田勝之助、蔵谷学

内容:2日間に分けて沖縄側と丸の内朝大学講師が企画したツアーを実施

11月19日(金)

「沖縄地域プロデュースの実践研修① 中南部編」

事前セミナーで説明した中南部を中心とした地域へ実際に足を運び、体験を通じてその現状を視察する。全体ディスカッションやワークションを通じてその地域に対するプロデュースサンプルなども作成。受講者と沖縄関係者の交流会実施。具体的な感想をヒアリングする。

09:30— 那覇空港到着後ピックアップ バスにて移動開始

10:30— サバニ乗船体験「ハマスーキ」・・・海人伝統文化、チームビルディング

12:00— 「海ん道」・・・海ぶどう丼、ビーチパーティーランチ

15:00— 東村の生産者、環境状況についてのレクチャー、カナンファーム試食

第一部講師:カナンファーム 代表 依田啓示

亜熱帯農業(畜産・野菜づくり、フルーツづくり)について

第二部講師:環境省やんばる野生生物保護センター やんばる自然保護官

加藤麻里子

やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」(環境省施設)の果たす役割、やんばる固有の生物多様性について。ヤンバルクイナの希少性について。

19:00— 「奥やんばるの里」へチェックイン

BBQ、国頭村職員と丸の内朝大学受講生のゆんたく会

22:00— やんばるの森ナイトツアー ……沖縄特有の大自然と調和する星空観察ツアー

ガイド:自然流工房「奥庵」新城弘幸 (雨天決行)

11月20日(土)

「沖縄地域プロデュースの実践研修② 中北部編」

08:00-17:00 事前セミナーで説明した中北部を中心とした地域へ実際に足を運び、体験を通じてその現状を視察する。

08:00— 日本一の朝ごはんを目指して！森の卵などをふんだんにつかった美味しい朝食を蔵谷氏監修の元調理場でつくる。

09:00— やんばるの森リバーウォーキング・・・①奥集落を散策、②リバーウォーキング

12:30— 「笑味の店」・・・伝統料理、長寿の秘密(ゆいまーる文化)

14:30— 「津嘉山酒造所(国華)」・・・伝統泡盛製造工程、国指定重要文化財見学

17:00— 「アーストリップ」・・・お土産販売 回った各所のオリジナル品をまとめて販売

18:00— 総評

2-3. 本事業を行う必要性

■ 行政の現状について

沖縄県の観光は今まで発地(内地)旅行会社を中心とした大型誘客で右肩上がりの産業に成長してきました。しかし、多種多様な個人旅行へのシフトとともに質の高い観光需要が高まり、地域への期待も負担も大きくなってきました。しかし、行政的的確な支援も無く、地域の産業は安定せず、収入も雇用も効果を出せていません。

現在は、プログラム推進班や観光まちづくり推進班を中心に地域の観光資源の見直しを図りながら、地元経済活性と雇用創出に向けて観光サポーター事業を展開はじめました。

■ 行政(沖縄県・沖縄観光コンベンションビューロー)の課題について

上記事業展開を受けて、地域では資源発掘や人材育成が本当に結果につながるのか、という不安と期待を持ちながら、なかなか誘客結果に結びついていないのが状況です。

行政としては様々な都市生活者向け事業を成功させるためにも、より首都圏中心のマーケットを意識したコンテンツづくりをすること、またそれを創出するための場作りやアクションプランが必要だと考えます。

■ 行政の連携部署について

沖縄県観光企画課にある観光づくり推進班を想定。通常であれば観光振興課の誘客宣伝になるかと思いますが、今回は各市、企業連携を目指しているため、地域づくり目線で観光づくり推進班との連携を想定しています。

■ 必要点の補足について

行政が民間(地域)事業者とさらに連携することで、マーケット(首都圏)側の視点を取り込んだ誘客実践型の協業モデル(具体的なアクションプラン)を実現できると考えます。

具体的には、今回の事業で実施する事前調査などを通じて、地域事業者の課題点をまとめ、行政が目標とする地域の姿に沿って、参加者と地域プロデューサーがアイデアを提案して、それを実行していくためのアクションプランを官民一体で推進していく、新しいモデルをつくります。

現在、沖縄(地方)に不足していること、必要としていることは、「首都圏マーケットの生の声を、地域コンテンツに反映させ、観光客に質(満足度)の高い体験を提供し続けること」だと考えます。

■ 都市部と地域での連動したブランディング作り、体制の強化

従来ノウハウ移転という、一方的にあるやり方をマニュアル化させて横展開をさせてきていましたが、今回のポイントは、都市生活者のニーズを把握している都市部のプロデューサー、都市生活者、地域の企業、行政が一緒になって、ツアー案を考えること、ブランディングを考えることです。

従来地域側だけで考えていても、都市部のニーズにあっていないということが多い中、本事業のポイントは、ターゲットである都市生活者も巻き込んでいる点です。

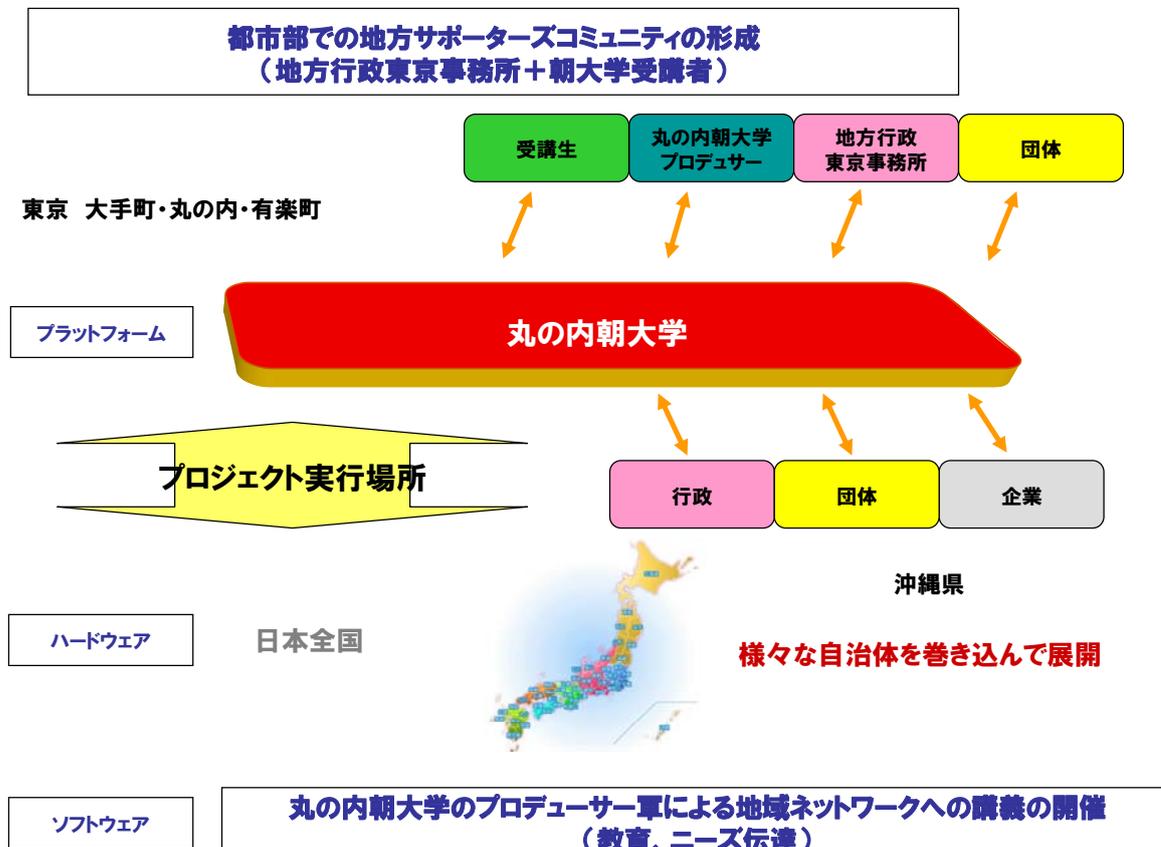
■ どうやって官を巻き込むのか

どのように官が、地元のNPOや、企業、都市生活者の意見をまとめながら、カリキュラムや、ブランドイメージを作っていくか。すでに各省庁、企業と連動しながら都市生活者コミュニティ形成の実績を上げている「丸の内朝大学」の経験を元に、丸の内朝大学 2010 秋学期に沖縄クラスを設置し、地域側に企画、集客、実施を行うプロセスを学んでもらうことで、今後も沖縄県の官民が協働できる仕組みを学びます。

■ 成果

今まで課題であった、「県」と「市町村」、「民間企業」と「地域プロデューサー」の意識の相違を改善するとともに、今後も意思疎通を簡易に行うための共通の方向性決定、コミュニケーション方法、PR 方法についてのノウハウを学びます。より実践的な地域プロデュースを「丸の内朝大学プロデューサー」と「受講生」に向けて企画提案し、地域プロデュースに必要な「知る・学ぶ⇒考え・議論⇒企画・提案⇒実施」の一貫したプログラムを実施します。社会人向けコミュニティ形成型市民大学「丸の内朝大学」を活用した、「地域(地元)コミュニティづくり(受け入れ事業者)」、「東京の地域コミュニティづくり(東京の観光所+東京の地方サポーター)」、「地域再発見の仕組みづくり」の実現を目指します。

(成果イメージ図)



朝の時間の学びを通して多くのステークホルダーが参加する場

「コミュニティプラットフォーム へ」

2-4. 本事業による効果予測

■ 環境、農業、観光、地域活性化に対する高い意識を持つ優良な人材の育成

首都圏で仕事を続けながらも、都市生活者として出来る地域の活動に積極的に参加する人材を育成します。将来的には地元に戻って地域活性化をしたいと願う人材のネットワークを作り、地域貢献するきっかけ作りを提供します。また地域の受入事業者と都市生活者が、同じ課題を共有し、共に過ごす時間を持つことで、地域の問題解決の糸口を見つけ、協力しながらアクションに移していけると想定します。

■ 地域の人材の意識改革、育成

地域側が都市生活者を受入れる体制を整えるために、地域の人材に向けた勉強会を開催します。勉強会を通して、その地域の資源の見直しや、どのような演出をすると都市生活者（県外から来たお客様）が喜び、地域全体の盛り上がりにつけていけるのか等、地域受入事業者自身が考える機会を設け、若手地域プロデューサーの育成につけていきます。

また、地域受入事業者は、「朝大学で教える」、「ツアー内容を考える」ことにより、都市生活者のニーズにあった企画をつくることが出来、さらに、地域プロデューサーが東京で実施する講義で説明する際に、フィールドワーク（通常ならツアー）前に都市生活者（受講生）に接するという新しいコミュニケーション型ツアーを実施できます。

■ 官民連携のプラットフォーム化

一口に地域連携といっても様々な形が考えられる中、民間が主導型のプラットフォームを構築することにより、補助事業期間の後も引き続き自走していけるモデルを創ることが重要です。官民が垣根を越えてこのプラットフォームサンプルを他地域へ横展開し、カリキュラムの移転の簡易化を目指すことで、多くの地方自治体や、NPO、民間企業が連携を図りやすい環境を構築します。

■ 待っている観光 PR から、巻き込む観光 PR へ。

現在、新しい主流と言われる着地型の観光ツーリズム。地域色を豊かにできると評判である一方、多くの観光客に存在を知ってもらう機会創出が少ないのが現実です。

そこで、丸の内朝大学を活用した本事業の様に、都心で既に実施している教育プログラム（市民大学）の一コマに事業を入れ込むことで、従来型の旅行を好む人へのアプローチだけではなく、思わず旅行したくなる「巻き込み型のツーリズム」の可能性を広げることが可能となります。これは、地方

自治体や NPO だけで確立しようとしても難しい分野であり、旅行の対象者になりうる、都市生活者のターゲット層を既に持っている丸の内朝大学のような民間主導型のプラットフォームと連動することで実現出来るようになります。

■ ターゲットマーケティングとしての機会創出

観光客と受入事業者が、現地に訪れた時のみでの接触ではなく、「授業」という形で受講者（都市生活者）と旅行前に交流することにより、受講生のニーズや、他地域からみた現在の沖縄の課題や、地域資源の再評価などを具体的に把握することができます。これにより、観光や、環境、食、歴史文化などに興味がある情報発信機能が高いオピニオンリーダーや既存の観光客へ向けた、よりニーズにあったコンテンツの開発に役立てることが出来ます。



参考資料:日経 MJ 2011 年 1 月 17 日

2-5. 運営・連携事業者紹介

◆ 一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツェリア協会)

【一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会 概要】(2010年4月1日時点)

名称:大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツェリア協会)

構成:会員制(正会員、賛助会員、ネットワーク会員により構成)

役員:理事長 伊藤 滋(早稲田大学)

副理事長 合場 直人(大丸有再開発協議会 幹事長)

理事 11 名、監事 2 名

(学識、大丸有再開発協議会、会員企業、地区テナントより選出)

事務局:事務局長 井上 成(三菱地所株式会社) 他 9 名

■ 環境共生拠点施設「エコツェリア」の創設 (2007～)



【活動内容】

- ①環境対策を可視化するモニタリング・シミュレーション
- ②環境イベントやセミナー等を通じたコミュニティ活動支援
- ③エリア内企業の環境・CSR セクションのネットワーク化
- ④行政や民間からの調査研究・企画業務受託
- ⑤環境先端技術企業等の研究・実証プラットフォーム



【省庁連携事業】

■環境省

- ・知的照明及び輻射空調システムなどを統合的に活用した低炭素型オフィス設備の最適化、始業に関する技術開発
- ・低炭素社会発見エコまちマップ製作・ツアー実施。
- ・大丸有地区・コミュニティサイクル社会実験

■農林水産省

- ・地産地消委員会、FOOD ACTION NIPPON 促進

■国土交通省

- ・先導的都市環境形成促進事業 他多数



【 2009 年度 エコツェリア受賞歴】

- ・子どもたちの「心を育む活動2009」
(パナソニック教育財団主催) 団体の部 奨励賞
- ・FOOD ACTION NIPPON アワード 2010 (FOOD ACTION NIPPON 主催)
環境コミュニケーション・啓発部門 優秀賞
- ・第 4 回日本ファシリティマネジメント大賞
(社団法人日本ファシリティマネジメント推進協会主催) 奨励賞
- ・第 19 回地球環境大賞
(フジサンケイグループ主催) 環境地域貢献賞



◆ 沖縄民間観光案内所「アーストリップ」

【会社概要】（2010 年 4 月 1 日時点）

名 称:株式会社アンカーリングジャパン

役 員:代表取締役 中村圭一郎

取締役 後藤大輔

取締役 石田竜一

設 立:平成 18 年 7 月 31 日

免 状:「ビジットジャパン案内所」認定(日本政府観光局)－民間企業初取得

【主な活動】

(観光地域振興事業・観光体験交流事業)

- ・沖縄県主催「外国人観光客受入促進事業」事業委員担当(2006)
- ・沖縄県主催「若年層市場開拓事業」検討委員担当
- ・沖縄モニターツアー現地コンテンツ開発・実施運営担当(2010)
- ・沖縄県主催「離島体験学習促進事業」(離島5島)事業推進員:ファシリテーター担当(2010)
- ・沖縄観光受入推進会議 事務局・議長担当(2009~)
- ・一般社団法人沖縄観光の未来を考える会 事務局担当(2008~)

(国際交流事業)

- ・ハワイ州政府観光局主催「ホクレア号日本航海」沖縄実行委員会担当(2007)
- ・内閣府主催「アジア青年の家」事業 沖縄現地体験交流プログラム担当(2008、2010)
- ・内閣府主催「アジア青年の家」事業 沖縄学習サポート(ファシリテーター)担当(2010)

(環境共生推進事業)

- ・沖縄総合事務局主催「持続可能な沖縄観光の推進方策検討調査事業」検討委員(2008)
- ・未来の人々と地球を創造する「アースシンク・プロジェクト」実行委員会 事務局担当(2008~)

【会員】

沖縄県旅行業協同組合 会員

沖縄県体験型観光推進協議会 会員

沖縄県エコツーリズム推進協議会 会員

3. 実施計画内容報告

本事業の全体構成

フェーズ	実施期間	取組内容	成果
沖縄Ⅰ	2010年7月23～25日	現地調査、協力依頼	現地の受入体制構築
沖縄Ⅲ	7月～9月	現地事業者との体制づくり および現地事業者教育	
沖縄ⅡⅡ	7月～9月	プログラムの検討	プログラムの構築
東京ⅡⅡ	2010年10月8日・15日	現地情報レクチャー	マーケティング PR手法取得
沖縄Ⅳ	2010年11月19日～20日 2010年11月20日 2011年3月11日	フィールドワーク実施 (プログラム実施) 現地事業者および参加者 へのアンケート調査 報告書提出	プログラムの実施 および効果等の分析

各フェーズの進め方

フェーズ	ねらい	意味づけ	効果	人材育成における意味
沖縄Ⅰ	①地域の問題点を共通意識とする。 ②現地のマーケティング。	①行政・民間業者による地域ぐるみの組織化。企画力をつける。 ②地域プロデューサーと朝大プロデューサーとの情報共有。	①行政・民間事業者の意識の統一。アイデアを出す方法を学ぶ。 ②地域プロデューサーに目利きを通して東京のニーズを伝える。	①研修により、アイデアの出し方を学ぶ。 ②地域プロデューサーにリアルなマーケットを意識させる。
沖縄Ⅱ	①地域受入体制を確立するための現地コミュニケーション	①地域プロデューサーが官民と密に情報を交換することにより、チームづくりを進める	①地域プロデューサーと地域とネットワークの再構築を行う。	①地域プロデューサーにリーダーの自覚を持たせる。
沖縄Ⅲ	①地域の魅力を再発見する。 ②地域が考える新沖縄の体験、検証。	①行政・民間業者による地域ぐるみの組織化。企画力をつける ②都市生活者のニーズと地域の考えるプランのニーズとシースの確認。	①自ら企画をする力をつける。 ②朝大プロデューサーが都市生活者のニーズに応える際に重視するポイントを学ぶ。	①②企画を作り、受入までのPDCA一連の流れを体験する。地域の活躍出来る場づくり。
東京ⅡⅡ	①都市生活者に地域の魅力を伝える。 ②都市生活者のニーズをヒアリングする。	①プレゼン力をつける ②地域と都市生活者のニーズとシースを確認する。	①同じ物事も伝え方により、印象が変わることを学ぶ。 ②リアルマーケットを意識する習慣をつける。	①PR力をつける。 ②マーケティング力をつける。
沖縄Ⅳ	①フィールドワークを通して、伝える力をつける ②都市生活者へのリアルマーケティング。 ③交流会を通して地域のファンづくりを行う。	①受入体制の実践の場。 ②官民共に都市生活者のニーズを把握する習慣をつける。 ③都市コミュニティと、地域コミュニティの交流の場とする。	①他の受入事業者の対応を見ることで地域の伝え方を学ぶ ②官民共に都市生活者のニーズを把握する習慣をつける。 ③都市コミュニティと、官民地域コミュニティの交流の場とする。	①地域の活躍出来る場の提供。 ②マーケティング力をつける。 ③官民連携の地域コミュニティの確立を目指す。 東京コミュニティと継続的に交流するきっかけをつくる。

各フェーズによる取組実績について

3-1. 第1回 沖縄事前ヒアリング・調査作業

◆(沖縄 I)

□ 現地事業者への説明会と関係先への協力依頼

日時:2010年7月23日(金)~25日(日)

場所:沖縄県内、那覇市内

- 7月23日 企業・団体説明会実施(那覇市内)
- 7月24日 現地視察、協力依頼(中南部)
- 7月25日 現地視察、協力依頼(中北部)

講師:丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、
地域プロデューサークラス講師 本田勝之助

ナビゲーター:沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

※観光行政職員と地域受入事業者が同行する

対象:地元企業(観光事業者等)、観光行政関係者、教育関係者

目的:朝大学 in 沖縄の説明から現地コミュニティ形成の賛同企業を探す。

また、沖縄の官民連携の問題を認識し、得意分野(マーケティング等)の解説を行う。

<スケジュール>

7月23日(金)

11:00-丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG-移動

13:00-「沖縄県観光振興課」事業説明・協力依頼-プログラム推進班長 加賀谷、担当:銘苅

14:30-「沖縄観光コンベンションビューロー」事業説明・協力依頼-受入推進部 担当:又吉

16:00-「観光受入事業者と地元有識者」への事業説明会を開催(沖縄産業支援センター)

* 沖縄観光受入推進会議メンバー含む 13名が参加

19:00-「上記関係者+他」との意見交換・交流会開催

宿泊:那覇市内ホテル(サンパレス球陽館)

7月24日(土)

- 9:00－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG－移動
- 10:00－「南城市観光協会」の視察と協力依頼・・・世界遺産、文化歴史体験
- 14:30－「糸満市・日本バイオテック」の視察と協力依頼・・・海洋文化、海ぶどう養殖
- 16:00－「豊見城市商工観光課」の視察と協力依頼・・・爬龍船、夏祭り見学
- 18:00－「金細工またよし」の工房見学・・・琉球の伝統工芸見学
- 20:00－「やんばるロハス」にてチェックイン・・・館内の視察・取り組みの体験
- 20:30－「東村事業所の関係者」との意見交換会・交流会開催

宿泊：東村ロッジ(やんばるロハス)

7月25日(日)

- 07:30－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG(朝食時)－移動
- 08:00－「東村・やんばるロハス」の視察と協力依頼・・・地域事業所の視察・体験
- 09:30－「東村・カナンおきなわ」の視察と協力依頼・・・畜産・農業施設
- 11:00－「東村・森のたまご・ハーブ園」の視察と協力依頼・・・有機農園・卵栽培
- 12:00－「名護市・カヌチャベイリゾート」の視察と協力依頼・・・環境対応ホテル
- 15:00－「名護市・津嘉山酒造所」の視察と協力依頼・・・戦前赤瓦家建築、酒造技術
- 17:00－「那覇市・FEC 嘉数氏」への協力依頼・・・首里歴史ガイド・那覇地域活性
- 19:00－空港チェックイン東京へ

<「事業説明会と事前ワークショップ」 実施報告>

日時：2010年7月23日(金)16:00～18:00(19時より近隣店舗にて交流会開催)

場所：沖縄産業支援センター 3階「会議室(310号室)」

住所－〒901-6234 沖縄県那覇市字小禄 1831-1 電話－098-859-6234

内容：1、丸の内朝大学の概要と事業説明

丸の内朝大学とは。

- 1) 街づくりにおける丸の内朝大学
- 2) 丸の内朝大学を実施するメリット
- 3) 会津若松市 丸の内朝大学地域プロデューサークラス連携事例紹介

2、各地域・事業所より現状の説明とPR

3、下記地域、各事業所とセッションをし、観光アイデアを創出する 他
参加人数:17 名

1、会津若松について(事例紹介)

プロデューサーズプラットフォーム事業紹介・・・地域プロデューサーが 400 名登録

地域の気がつかない所や当たり前な事を外からの目線で魅力を伝える。

地域と都市の連携、連動について・・・行政や地域、首都圏と組む事で流通をさせる事が出来る。

2、ワークショップ

4名1組のグループに分かれ、沖縄の課題や問題点、解決策などを討論し、各グループごとに発表。

3、今後の具体的スケジュール確認

9月9日～11日 ノウハウレクチャー

10月8日/15日 東京朝大学にて、2回のレクチャー

11月19日～20日 沖縄ツアー実施

<ワークショップ風景> 7月23日(金)



他のエリア、業種に分けて沖縄の問題点を考える



チーム毎に沖縄の背景、問題点、解決策を考え発表



参加者の声「今まで問題を他の業種や行政と考える機会もなかったという声印象的であった」

<地域視察の風景> 7月24日(土)~25日(日)



南城市の子供向け魚を使った料理の体験教室見学、体験



沖縄の伝統工芸の見学。現状後継者が居ない現状についてヒアリングを行う



交流会にて地元受入事業者の問題をヒアリングする



亜熱帯農業の見学



泡盛酒蔵の見学

(沖縄 I) の取組を通して観測された効果等

ワークショップを開催することにより、自分たちで地域の問題を意識し、アイデアの出し方を学びました。また、地域資源の確認、地域問題等について官民共に地域について共通の認識を持つことが出来ました。受入事業者で共通認識を持ち、自分たちで考え、企画を考えるという癖をつけることが非常に大切であり、一度だけではなく、何度も繰り返し実施し、思考の癖をつけることが必要です。また、最初に意識合わせを行うことで同じ目標を持って本事業を進めることが出来るので同様に大切なプロセスです。

また、地域プロデューサーが、丸の内朝大学プロデューサー達と各行程に同行することで、地域資源の見つけ方、選び方、伝え方等を学ぶことになり、地域をまとめる地域プロデューサーの役割を改めて自覚させることが出来ました。

(沖縄 II)

□ 沖縄受入体制づくりと実施内容の検討

日時:2010年8月2日(月)~9月17日(金)

場所:沖縄県内全域

○8月2~13日の2週間で再度受け入れ事業者へ説明実施(電話・メールにて)

○8月16~27日の2週間で現地調整・視察の検討調整(9月9日~3日間)

○8月30日~9月3日までの1週間で沖縄フィールドワーク内容(案)決定

○9月9~11日沖縄にてプロデューサーと現地視察・ワークショップ開催(別紙)

○9月13~17日の1週間で現地と実際の沖縄フィールドワークの見直し実施

担当:沖縄受入地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

内容:受入事業者(賛同者)との打合せから具体的なフィールドワークの内容を決定する

また9月実施の沖縄でのワークショップと視察内容を提案する

<目的>

丸の内朝大学ニッポン再発見の旅沖縄編のフィールドワークを対象に、地域のもつポテンシャルを探りながら、より具体的な活用方法とそれを導き出すプロセスを沖縄プロデューサーが軸となり、地域の受入事業者と連携を深めながらそのノウハウを習得していくための現場力のトレーニングを行いました。また官民がどのように協働できるか?等の前回までの課題解決にも取り組みます。

(受入事業者リスト)

- ① 楚洲あさひの丘(宿泊施設)・・・国頭村
- ② 国頭村(役場)・・・国頭村
- ③ 奥庵(体験業者)・・・国頭村
- ④ やんばる学びの森(国頭村)
- ⑤ カナンファーム(養豚・農業)・・・東村
- ⑥ やんばるロハス(体験宿泊施設)・・・東村
- ⑦ 笑味の店(農業レストラン)・・・大宜味村
- ⑧ 津嘉山酒造(酒造所)・・・名護市
- ⑨ かりゆしビーチ(サンゴ植樹)・・・恩納村
- ⑩ 海ん道(海ぶどう養殖施設)・・・糸満市
- ⑪ 南城市観光協会(観光)・・・南城市



<打ち合わせ内容>

1、各地域と受入事業者の魅力・サービス内容とは？

どの事業者もそれぞれの地域の魅力について、明確ではないが「人と自然」という価値観で商品やサービスを提供したいという認識を共有しました。具体的には自然との触れ合いを通して、各地域の食や農業、健康等という切り口で地域資源を活かした魅力を価値化したいとの意見に集約できたことは成果だと認識しています。

2、実際の受入イメージを想定すると？

上記「1で出た内容を具体的にイメージしてほしい」、と各受入事業者に宿題を与え、現場で検討して貰いました。その内容を沖縄フィールドワーク(案)の内容に落とし込んでいく作業を行いました。この時点では、行程検討段階ということもあり、実際にフィールドワークの行程に入れた場所とは異なったが、より実施イメージができたところを採用したことで、フィールドワーク当日は事業者の中でも特に積極的に都市生活者との交流を望む事業者が受入を担当することになりました。

3、最終的な事業者との連携手法とは？

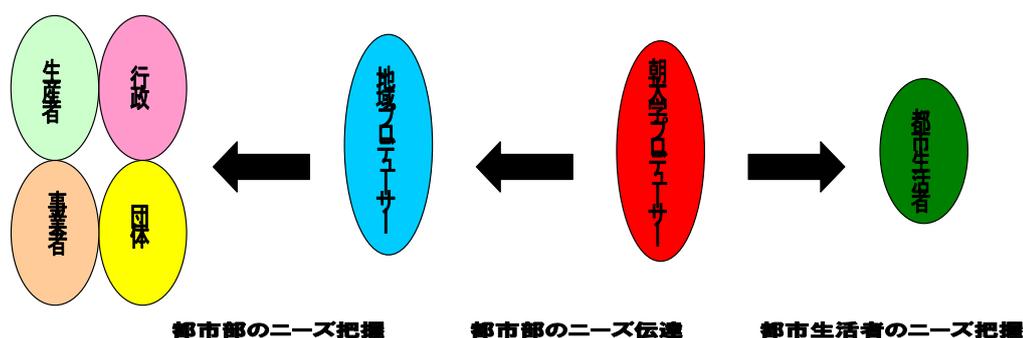
「行政と各地域」、「都市と地域(沖縄県)」が今後どのように連携し、様々な課題解決への取り組みを連動させることができるのか？等、少々困難な課題についても各地域へ問題提起を行いました。受入事業者からは、「やってみないとわからない」という意見が多かったが、この実証事業を通じて何を学び、どの部分を行政や各地域と協働できるのかを考える課程が非常に重要だったと考えます。

(沖縄Ⅱ)の取組を通して観測された効果等

沖縄の地域プロデューサーと受入事業者が協力してコンテンツを作り出していく際に、丸の内朝大学のプロデューサーが都市生活者のニーズ(価値観)を投げかけ、それを地域プロデューサーが各受入事業者伝えて、各コンテンツの質向上を目指しました。更に、行政と民間事業者の間に入って、地域の魅力とサービスの創出・向上を整理した(沖縄Ⅱ)というプロセスは、地域が都市生活者の立場に立ち、官民共に自分たちのエリアを越えて受入体制を整える必要があることを自覚したことは、非常に重要かつ大きな成果だと感じました。また最終的には、沖縄で行うフィールドワークを通じて地域がどのような価値を創出できるか、目標を共有することによって全体の士気が高まり、物事がまとまっていく課程を共有することによって、民間事業者にも新しいマーケット創出の可能性を感

じるきっかけを誘発できたと考えます。

懸念点としては、沖縄の夏季シーズン(繁忙期)であったこともあり、民間事業者が十分に対応できなかったことは残念であり、反省点です。今後はもう少し繁忙期を避け、スケジュールをしっかりと設定することでより中身の濃い検討時間とすることが出来ると思います。



3-2. 第2回 沖縄事前ヒアリング・調査作業

(沖縄 III)

□ 沖縄受入事業所向けワークショップの実施

日時:2010年9月9日(木)~11日(土)

場所:沖縄県内、那覇市内

- 9月9日(木) 那覇市内-沖縄県立博物館・美術館 1階講座室(美術館側)
- 9月10日(金) 現地視察-地域参画候補事業所・受入先の視察(北部)
- 9月11日(土) 現地視察-地域参画候補事業所・受入先の視察(北部)

講師:丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、

地域プロデューサークラス講師 本田勝之助、蔵谷学

受入:沖縄地域プロデューサー担当「アーストリップ」中村圭一郎

対象:地元企業(観光事業者等)、観光行政関係者、教育関係者

目的:コミュニティスクールによる地域特性の生涯学習の意味づけ、演出、集客、コミュニティの存

続方法、企業を巻き込む手法などのノウハウレクチャー（座学）を行う。地元キーマンと沖縄のポイントを巡りながら現状評価と課題点などを検証する、地域フィールドワークの実施。実際の受入側となることで、実施するプログラムを体験しながらその素材価値分析や活用手法の提案などを検討する。

内容:10月8日、15日に東京で開催する、「丸の内朝大学流 地域再発見の旅(仮称)」、11月19日、20日に実施する現地ツアーのプランニングのプレゼンテーション。具体的な沖縄の地域素材を活用した、受入コンテンツを制作し、実際の受入体制などのイメージ、実際の現場を視察しながらプランの磨き上げを実践する。

<スケジュール>

9月9日(木)

11:00－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG－移動

13:30－「丸の内・朝大学の地域コミュニティづくりに関するノウハウレクチャー」

14:30－「地域コミュニティ創造ワークショップ」(各グループにわかれて)

詳細:沖縄県とその地域で“観光・健康・環境・歴史文化”などのキーワードでプロデュースされた取り組みを検討して立案するワークショップの実施。

15:30－プレゼンテーション・発表(各グループにわかれて)

16:00－講師総評・今後の取り組みを検討

16:30－終了(北部の宿に移動)

19:00－宿泊先へ到着

宿泊:東村ロッジ(やんばるロハス)

9月10日(金)プラン案実施&現地説明・視察

09:00－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG－移動

10:00－「東村・慶佐次周辺」にて地域・体験施設視察・・・地元キーマンの取り組みなど

12:00－「大宜味村・笑味の店」への協力依頼・・・有機農業、長寿食料理体験

13:30－「国頭村・商工観光課」への協力依頼内容確認・・・11月現地ツアーの受入に関して

15:00－「国頭村・ウフギー自然館」の見学協力依頼・・・環境省やんばる野生生物保護センター

16:00－「国頭村・与那集落散策」の視察と協力依頼・・・地域コミュニティガイドの体験

17:00－「国頭村・楚洲あさひの丘」宿泊・・・11月現地ツアー確認、館内視察・取組み説明

19:00－「地域関係者」との意見交換会・交流会開催

21:00－「ナイトツアー」体験・・・星空観察、ヤンバルクイナ観察

宿泊：国頭村施設（楚洲あさひの丘）

9月11日（土）プラン案実施&現地説明・視察

06:00－モーニングアクティビティー・・・早朝森林ウォーク、自然観察

07:30－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG（朝食時）

09:30－「国頭村・学びの森他」の視察と協力依頼・・・エコツーリズム、農業体験、海洋観察

13:00－「東村・カナンファーム」にて本田と中村をテレビ取材・・・NHK「クローズアップ現代」

15:00－「名護市・津嘉山酒造所」の再視察と協力依頼・・・戦前赤瓦家建築、酒造技術

17:30－丸の内朝大学事務局とアーストリップ MTG（那覇市内）

19:00－空港チェックイン（東京）

<「沖縄型地域コミュニティ創造ワークショップ」 実施報告>

日時：2010年9月9日（木）13:30～16:50

場所：沖縄県立博物館・美術館 1F 講座室（美術館側）

参加者：27名（別紙名簿参照）

主催：沖縄民間観光案内所「アーストリップ」

内容：丸の内・朝大学の地域コミュニティづくりに関するノウハウレクチャーと各グループに分かれてのディスカッションなどを実施します。

講師：丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、
地域プロデューサークラス講師 本田 勝之助、蔵谷 学

進行：沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」 中村圭一郎、後藤大輔

<内容・ワークショップの流れ>

13:35－ 前回の振り返り 7月23日（金）に行われたワークショップの実施報告

14:00－ 講師紹介&自己紹介

14:05－ 受講者紹介 一人ひとり挨拶

14:20－ 丸の内朝大学の説明

- ① 丸の内朝大学とは（古田秘馬）
- ② 丸の内朝大学を実施する理由（井上奈香）

③ 会津若松市の朝大学連携事例紹介(本田勝之助)

④ 裏磐梯の事例紹介～3温泉施設復活の取り組み～(蔵谷学)

15:25— 休憩

15:40— グループディスカッション「沖縄の PR コンセプトを考える」

4～5名を1グループにして、4グループに分かれてディスカッションを実施

16:05— 中間報告(グループごとに発表 代表者1人)

16:15— 再びグループディスカッション実施

16:30— グループ発表・今日の感想

16:50 終了

<ワークショップの詳細内容と成果について>

丸の内朝大学の説明(概要)

① コンセプトとは(丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬)

丸の内朝大学は、朝の時間を有効に使いたい！楽しみたいという人のために開校。

人を集めるには、キーワードが必要。計算にならない絶対価値観。

良いネーミングとは…

一目で分かり、思わず想像が広がっていくようなもの。五感に響くキャッチコピーをつける。

コンセプトを決めるとコンテンツが出来る。

コンセプトとアイデアを混同してはならない。

○コンセプト→哲学・意味付け・プロジェクトの本質

○アイデア→演出・仕掛け・具体的な企画内容



② 丸の内が丸の内朝大学を実施する理由(丸の内朝大学企画委員会 井上奈香)

丸の内は、官民連携体制による面的な街づくりを実施。

就業者の環境的人材育成、啓蒙として丸の内朝大学を実施。朝大学を使ったコミュニティ形成、まちのブランディング。地域連携による都市生活者の新しい知恵の移転を目指す。



③ 会津若松市 丸の内朝大学地域プロデューサークラス連携事例紹介(丸の内朝大学地域プロデューサークラス講師 本田勝之助)

2010.04 丸の内朝大学で「地域プロデューサークラス」スタート

2010.05 地方における課題を投げかけ、事前学習実施(地域を学ぶ・調べる)→ 現地研修

2010.06 受講者から会津市に向けて会津の「魅せ方」を公開プレゼン実施

「大人の修学旅行」と題して、第三者からみた会津の良さを新提案される。

2010.08 プレゼン案を実際に会津活性プログラムとして採用。

「丸の内朝大学全クラス合同合宿」(約 140 名参加)で再び会津へ。新しい魅力が発見され、新しいアイデアが生まれた。



④ 福島県裏磐梯の事例紹介～3温泉施設復活の取り組み～(丸の内朝大学 地域プロデューサークラス講師 蔵谷学)

まずは地元の人、施設の関係者と交渉。時間をかけて地元を受け入れてもらう。

街づくりは暮らしづくりでもあり、地元力を失わないで活かす方向を見つける。

保存・再生・コミュニティ創造を活かしながら最終的にお互いが繋がる街づくりを目指す。

しっかりとテーマを設定して取り組む。



<グループディスカッション(概要)>

1.グループディスカッション議題:「沖縄のコンセプトを考える」

沖縄の地域活性において、コンセプトを探し、官民連携してコンセプトを決めることが必要である。コンセプトを決めるとコンテンツが出てくる。まずコンセプトを話し合い、コンテンツアイデアを出していきます。



(沖縄を表すキーワード)

- ・テーゲー
- ・うちなータイム
- ・ユイマール
- ・チャンプルー文化
- ・祈り
- ・カメーカメー
- ・天然の海
- ・うちなーぐち
- ・自分を見つめる時間(自分は自分でいいんだと気づく自分発見の時間)

(沖縄Ⅲ)の取組で観測された効果等

官民の受入事業者が、地域の魅力について考え、アイデアを出し企画をつくれる力をつける第一歩となったと思います。特に、今まではツアー等の流れでまさに受け入れるだけだった受入事業者が、自ら企画をつくり、見せ方を考え、企画することにより、より都市生活者のニーズを考えながら事業を実施するきっかけを担えたと思います。

受入事業者から沖縄の魅力を表すキーワードが出てきたところで、次に丸の内朝大学プロデューサーがそのキーワードを都市に持ち帰り、キーワードが都市生活者に響くか否か議論を行います。沖縄と東京でアイデアを共有し、選定された結果を持ってフィールドワークを開催することで、双方の繋がりを広め、都市生活者に満足して貰える結果を出すことが出来、受入事業者に成功体験をしてもらうことができます。

<課題>

沖縄の人は、キーワードや引き出しをたくさんもっているが、人に話して伝える技術が足りない。自分の知識を表現し、伝えることが必要。また、他の企業や官とのコミュニティをつくり、都市生活者の立場にたって考えることが必要だと思います。

<地域視察の風景> 9月10日(金)~11日(土)



沖縄の伝統野菜の生産方法、料理方法見学



環境省より生態についての説明を受ける



地元のお土産についての意見交換



村歩きを体験 やはり誰がどう説明するかが大きな課題のようだ



国頭村との意見交換会



やんばる学びの森説明

3-3. 第3回 東京・受講生向け授業

(東京 I II)

◆丸の内朝大学 2010 秋学期

「丸の内朝大学 ニッポン再発見の旅シリーズ第1弾 ～沖縄編～」

<概要>

- ・朝大学の受講生(30名)を対象に、事前セミナー2回+1泊2日沖縄現地ツアー実施のクラスを開校する。
- ・10月8日、15日に沖縄に関する講座開催。
- ・新しい沖縄の魅力を発見する企画実施。
- ・フィールドワークとして11月19日、20日(1泊2日)沖縄ツアーの実施。

□事前セミナー

日時:10月8日(金)、15日(金) 7:30-8:30 全2回

場所:東京丸の内 新丸ビル「エコツェリア」

講師:沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

目的:沖縄の地域プロデューサーが東京の参加者に直接講義を実施することにより、消費者のニーズを知る、確認する。参加者に沖縄サポーターになって貰うために沖縄の魅力を伝えるプレゼンの場とする。

- 内容:第一回 10月8日(金)「沖縄の新しい旅を提案する」
青い海や空だけが沖縄じゃない。これから旅人が目指す本当の感動とは？
- 第二回 10月15日(金)「沖縄を地域プロデュースする」
沖縄の人々と地域の魅力を再発見しながら、沖縄サポーターになる旅の
仕方とは？

(東京 I II)の取組で観測された効果等

地域プロデューサーが講義を行う際にも、丸の内朝大学プロデューサーにより、提供する情報の精査を行いました。地域プロデューサーがコンテンツの目利きの仕方を学ぶことにより、都市生活者が知らない、知りたい沖縄の情報の基準が分かり、地域プロデューサーが受入事業者に都市生活者のニーズを伝えることができます。同じ情報でも伝え方によって興味を持って貰えるか否かなど、伝える技術を確認することができました。

また、東京の地方事業者が参加することにより、改めて地域目線ではない都市生活者のニーズを把握してコンテンツを作ることが出来るようになります。また、東京の地方事業者と受講生が交流することにより、東京のネットワークを作るきっかけになりました。このことにより、今後も受講生に地域の魅力的な情報を伝えるルートが出来、地域への興味を定常的に持って貰うことができます。

(丸の内朝大学 沖縄クラス 受講者 自己紹介データ)

丸の内朝大学 Presents ニッポン再発見旅シリーズ 第1段～沖縄編～ 2010年10月8日(金)、15日(金)		
NO	性別	コメント・興味・イメージは？
1	男性	兄夫婦も沖縄移住を計画している、沖縄の魅力とはどんなものなのか？
2	男性	沖縄県出身で東京在住、沖縄への取り組みに大変興味あり
3	女性	沖縄病でここ9年ほど、沖縄へ通っており、3日間くらいふらっと沖縄へいつている。また、自然環境にも興味があり、マングローブの植樹なども経験している。離島の小浜島が大好き。
4	男性	学生のころ、一人で沖縄へ船旅をした。その後5回ほど沖縄旅行へいつている。
5	男性	今回農業クラスと、このクラスを受講しており、沖縄へは1度だけ行ったことがある、ですが綺麗な海、空のイメージだけです。
6	女性	今年沖縄旅行を経験した。綺麗な海と空で感動した。伝統の踊りにも興味を持っている。
7	男性	老後を沖縄で！という夢がある。今回は事前に学習して、沖縄へいくことに大変興味があった。やはり沖縄はリゾートのイメージ。大学のころには友人7名で旅をした経験がある。平和や歴史を勉強した記憶がある。
8	女性	小学校まで沖縄で過ごした。あまり記憶がない。
9	女性	沖縄へは5回ほど旅行した。表面的な部分しか知らないと思う。
10	男性	15年前に旅行をした。初乗り360円の記憶がある。ゴーヤ味のお茶？など、とにかくおもしろいものがたくさんあったイメージ。
11	女性	友人が沖縄へ移住している。自身は地域活性に興味がある。北国出身。
12	女性	今回が初めての沖縄である。大人の修学旅行に惹かれた。
13	女性	久米島でサトウキビ・前回アーストリップのツアーに参加した。本島に楽しかった記憶。
14	女性	今まで行きたかった場所。今回が初めてでこの機会を待っていた。
15	女性	沖縄が大好き。今回で5回目。海・空・太陽がステキ。だが意外と曇りも多い。時間の流れも大好き。サバニで転覆して以来、そのトラウマを変えたい！
16	男性	去年と今年、沖縄旅行をした。石垣に友人ができ、他の離島も行ってみたいとなった。自分で三線を購入して練習中。
17	女性	今まではガイドブックなどの情報で沖縄を旅行していた。今回は人やこの講座を通じて旅がしてみたいと思った。

18	女性	今回は大人の修学旅行ということで学生気分で楽しみたい。一度サウキビで迷子になったことがある。美味しい泡盛も楽しみである。
19	女性	前は沖縄旅行へ 4 名でいった。今回は新しい沖縄を発見したい。小浜島が大好き。
20	女性	AGTに勤務しており、外国人の受入なども経験。新しい旅の提案に期待している。添乗でも沖縄へ何度か訪れている。
21	男性	文化的な人間で、岡本太郎さんの本をみて沖縄を訪れた。アウトドアではないがそんな場所も楽しみにしている。当時彼女と大城美佐子さんのライブをみにいった。
22	女性	池澤夏樹さんの沖縄記事を拝見している。シーサーがある沖縄。沖縄のあこがれもある。
23	男性	大学院で都市と農村の関わりを学んでいる。今回はそんな沖縄の側面を見たい。初めての沖縄で楽しみ。



受講者の他にも沖縄県東京事務所の関係者も参加。

3-4. 第4回 現地開催

(沖縄Ⅳ)

◆地域の人材の意識改革

□「丸の内朝大学 ニッポン再発見の旅シリーズ～沖縄編～」

日時:11月19日(金)～20日(土) (1泊2日)

場所:沖縄本島中北部中心

講師:沖縄地域プロデュース担当「アーストリップ」中村圭一郎

監修:丸の内朝大学企画委員会 井上奈香、丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬、
地域プロデューサークラス講師 本田 勝之助、蔵谷 学

<内容>

- ・沖縄本島中北部で「沖縄地域プロデュース・フィールドワーク」を実施する
- ・単に旅するのではなく、学んできた新しい沖縄を発見する。
- ・地域の人と交流する。
- ・都市生活者の目線で旅をする。



丸の内朝大学 秋クラス「沖縄クラス」フィールドワーク スケジュール

≪1 日目≫ 11 月 19 日(金)

時間	内容
09:30	沖縄到着、バス乗車 出発
↓	(移動)
10:00	糸満市 到着
(30 分)	■海ぶどう LABO「海ん道」 海ぶどう LABO「海ん道」(養殖と海ぶどう丼ランチ) http://www.uminchi.com/index.html
(90 分)	■NPO 法人「ハマスーキ」 糸満海人サバニ潜ぎ体験(海人たちとの触れ合い) ※同場所から徒歩で海岸へ移動して、近隣のサンゴ礁を潜ぐ
12:00	■昼食 「海ん道」にて、海ぶどう丼(糸満近郊の刺身も添えて)
13:00	バス乗車 出発
↓	(移動)
15:00	東村 到着
(120 分)	■「カナンスローカフェ&カナンファーム」 http://www.canaan-farm.com/ 北部「やんばるの森」で生物多様性を学ぶ！(講話) 「東村」地域プロデュース！(講話とカフェタイム) ※スローカフェでは、やんばるの食材を使った料理もふるまわれます。
(30 分)	・カナンファームにて畜産現場と農場の見学・説明
17:30	バス乗車 出発
↓	(移動)
19:00	国頭村 到着
	■「奥やんばるの里」 宿泊先・チェックイン http://okuyanbarunosato.com/
20:00	■夕食 「ゆるる夕食 BBQ」と「ゆんたく会」！(アグーや鍋等)

≪2日目≫ 11月20日(土)	
時間	内容
8:00	■朝食 朝大学プロデュース美味しい朝食！（体験も味も！）
09:00	施設玄関集合 出発 ↓ (移動)
10:00 (120分)	■「奥庵」 現地ガイドの新城さん・名嘉山 昔ながらの「奥集落」を散策！（グループ別） やんばるの森でリバーウォーキング！（グループ別） ※参加者の選択で二手に分かれてプログラム実施
11:30	バス乗車 出発 ↓ (移動)
12:30 (90分)	大宜味村 到着 ■「笑味の店」 沖縄の長寿食！「笑味の店」を堪能！（散策も） http://eminomise.com/
13:00	バス乗車 出発 ↓ (移動)
14:30 (60分)	名護市 到着 ■「津嘉山酒造所」 赤瓦家の泡盛工場「津嘉山酒造所」！（味も説明も） http://www.awamori-kokka.co.jp/
15:00	バス乗車 出発 ↓ (移動)
17:00 (60分)	那覇市 到着 ■「アーストリップ」 地域産品等の展示即売会を実施 http://www.earthtrip.jp/
18:10	バス乗車 出発 ↓ (移動)

<フィールドワークの風景> 11月19日(金)~20日(土)

1日目ー糸満市「サバニ体験」



沖縄の古くからの伝統的な小型漁船「サバニ」を通して昔の人の伝統技術を学ぶ。



「サバニ」や世界で初めて作られた「水中眼鏡」についての歴史を学ぶ。

1日目ー糸満市「海ぶどうLABO 海ん道」





沖縄の生産物「海ぶどう」について生産過程を学ぶ。東京から沖縄に移住した生産者の生活についても学ぶ。



取れたての海ぶどうを食す。生産過程を学んだ後に食すことにより、より大切に食べ物を思う。

1 日目－東村 「カナンスローカフェ」生態系講話



ヤンバルクイナの現状、東村の生物多様性について学ぶ。

1 日目－東村 「カナンスローカフェ」地産品見学、試食



亜熱帯地方の生産物・畜産物の特性について学ぶ。

1 日目－東村 「カナンスローカフェ」生産者講話



こだわりのポイントのレクチャーを受けた後に、生産物を実際に食すことによって体験し、興味を持つ。

1 日目－東村 「カナンスローカフェ」、生産現場見学



畜産の現場に行き、アグー豚の生育について学ぶ。

1 日目－国頭村 「奥やんばるの里」地産品料理体験



行政の担当から地元産品の料理法を直接学ぶ。地元の生活に触れる。

1 日目－国頭村 「奥やんばるの里」 ゆんたく会



官民の受入事業者との交流会。村の抱える問題、都市生活者のニーズについて直接ヒアリングを行う。

1 日目－国頭村 「奥やんばるの里」 ナイトツアー



貴重性を学んだ、ヤンバルクイナを探しにナイトツアーに。学んで体験することにより、より強い興味を覚え、印象に残すことが出来た。

2日目－国頭村 「奥周辺のフィールド」リバーウォーキング



自然の美味しい水をいただくことで改めて生物多様性の重要性を確認する。



地域側のガイドによる自然散策。

2日目－大宜味村 「笑味の店」畑の散策・長寿料理



沖縄の長寿の秘訣を学ぶ。伝統野菜の育て方についても学ぶ。

2日目－名護市 「津嘉山酒造・名護ビーチ」遊泳・酒造所見学



初日の天気を考慮し、受講生のニーズに応じて急遽名護ビーチに寄る。受講生の満足度は常に確認することが大事である。



東京出身の杜氏から建物の歴史について、お酒づくりのこだわりのポイントについて説明を受ける。杜氏の説明の仕方に関して、参加者から「伝える力・興味を持って貰う力が強い」との声が多かった。

(沖縄Ⅳ)の取組で観測された効果等

都市生活者の東京と沖縄の気持ちの切り替わりまでを計算に入れてスケジュールコンテンツを作り上げたので、受講生にとって一泊二日という短い時間ではあるものの、充実した時間を過ごして貰えたと思います。生憎初日は天候が悪かったことから、受講生の声を聞き、急遽海メニューを追加しました。常に参加者の満足度を測りながらコンテンツを実施することも伝えられたと思います。

フィールドワークの一泊二日という時間を過ごす中で、受入事業者は、都市生活者とただ会話をするだけではなく、常にヒアリングになるということも大切な時間だったと思います。また、常に都市生活者と交流を持つことで、人と人の繋がりが生まれ、フィールドワークが終わった後も、東京と沖縄で情報交換をする基盤が出来あがったと思います。

受入事業者は、自分の受入だけではなく、他の受入事業者の対応を見ることにより、丸の内朝大学プロデューサーがなぜそのコンテンツを選び、受講生が満足したかを確認することができたと思います。受入事業者同士の交流が深まったことも、フィールドワークの効果だと言えます。

また、スケジュールを決定する際に、11月に沖縄で選挙があった為に現地開催日程に限りがあったこと、連休に当たる為に金曜日、土曜日でフィールドワークを実施せざるを得なかった為に参加者が想定より少なくなっていました。



4. 本事業を通しての効果と展望

4-1. 各事業参加者のフィードバック

本事業では、地域への二度の事業説明会・現場調査研修と、一度の現場実践研修型のフィールドワーク(受入)を通して、参加・協力いただいた受入事業者に対して、下記内容のアンケートを実施しました。その結果を踏まえ、最終的な事業評価と今後の継続的な展開を考えます。

また、そのアンケート(評価)から効果を検証して、今回関わり、育成された現地の地域プロデューサーと共に継続性のある取り組みにできるよう、現地フィールドワーク終了後も意見交換を進め、実施で得た課題や評価についてフィードバックを実施しました。

その観点からも受入事業者と地域プロデューサーとの関係性は非常に大切であり、地域プロデューサーを中心に各地域の受入事業者を束ねていくこと、またそのネットワークが機能していくことは、一定の評価に値すると考えております。

また、フィールドワークに参加した、丸の内朝大学受講生と受入事業者の満足度評価も同じ傾向がみられる点からも、地域の可能性がさらに広がります。

以下に、「各受入事業者」、「事前ワークショップ参加者」、「県外からのフィールドワーク参加者(丸の内朝大学関係者 自治体)の三つの視点からの評価をまとめて記すこととします。



(受入事業者へのアンケート実施報告)

- ◆ 配布日 2010年11月20日
- ◆ 配布先 受入事業者
- ◆ 配布数 20名
- ◆ 回答 8名

【質問内容】

1. 受入事業者としての満足度はいかがでしたか？ (1つだけ選んでください)

- ①たいへん満足 ②満足 ③どちらでもない ④不満 ⑤たいへん不満

2. 次年度以降も実施してほしいと思いますか？ (1つだけ選んでください)

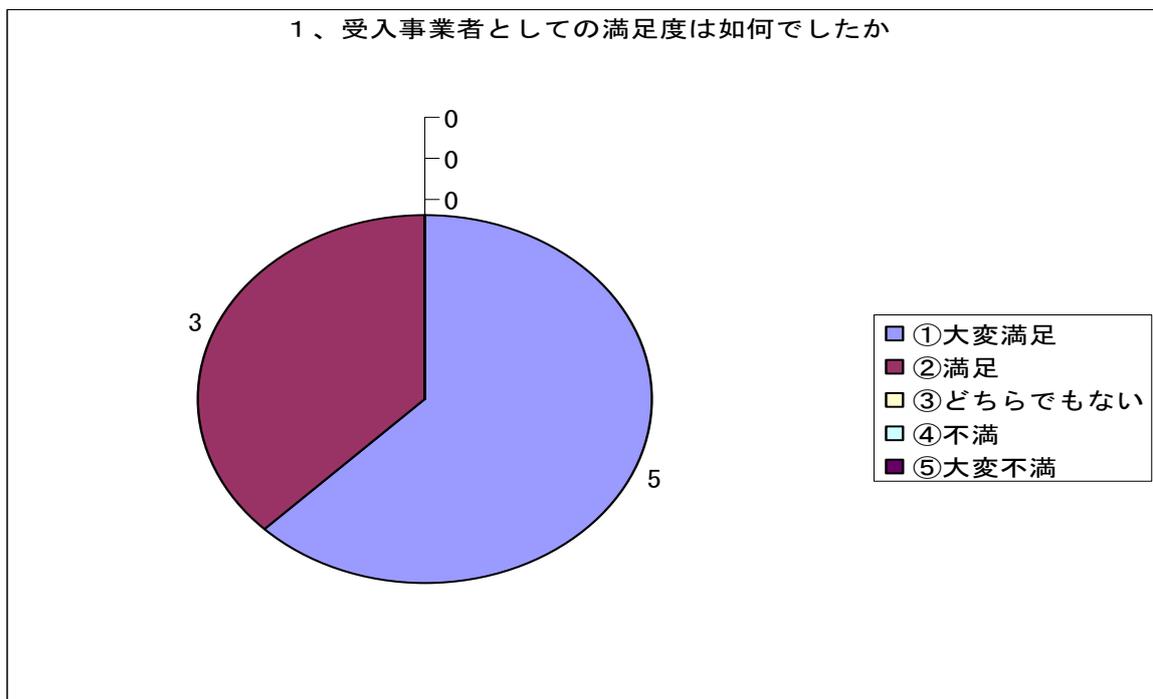
- ①ぜひ実施してほしい ②できれば実施してほしい ③どちらでもない
④できれば実施してほしくない ⑤実施してほしくない

3. 本事業の成果を以下から選んでください？ (該当するものをいくつでも)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 地域の良さを伝えることができた | <input type="checkbox"/> プログラム企画運営を学べた |
| <input type="checkbox"/> 地域内の連携が進んだ | <input type="checkbox"/> 受入のノウハウ(体制)が習得できた |
| <input type="checkbox"/> 体験プログラムを開発できた | <input type="checkbox"/> 旅行者との交流が深まった |
| <input type="checkbox"/> 地域の人たちにも喜んでもらった | <input type="checkbox"/> 自分たちも楽しかった |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

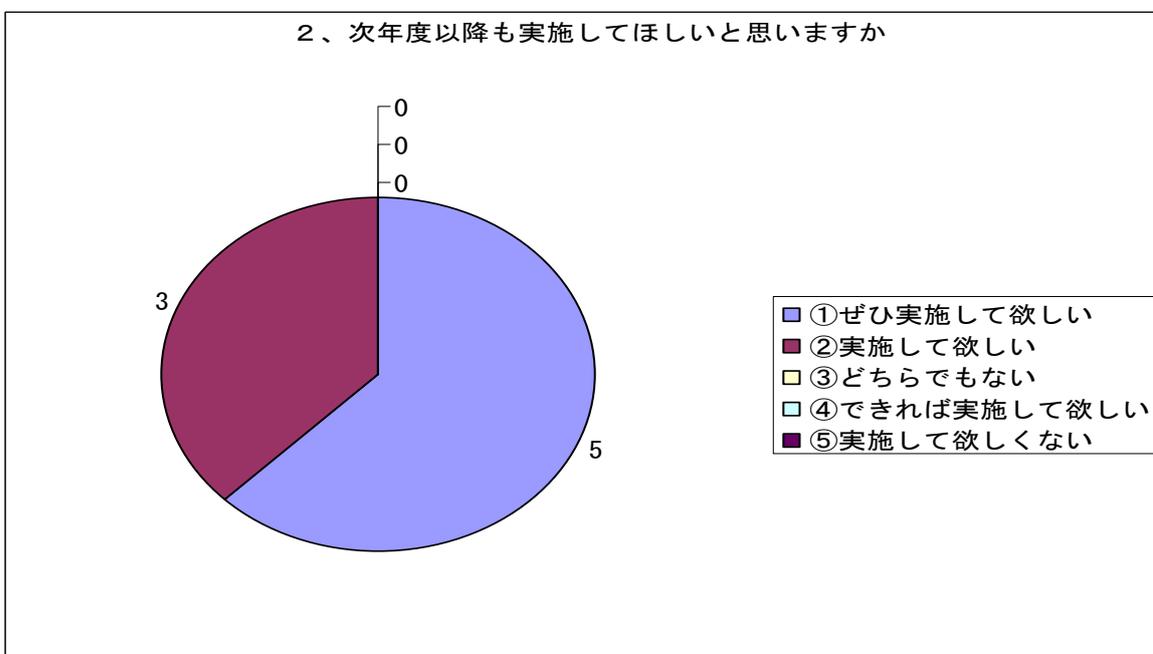
4. 地域ノウハウ習得を高めるために、今後どのような改善が必要だと思いますか？

5. その他、ご提言、アドバイス、感想などご自由にお書きください。



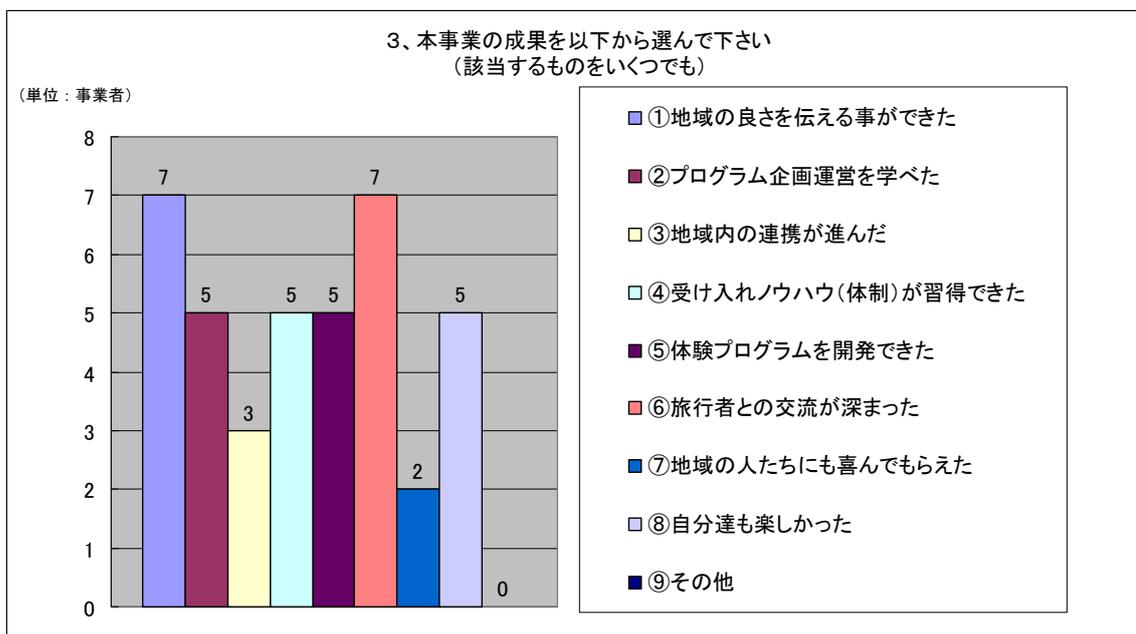
1、受入事業者としての満足度は如何でしたか？

- ① 大変満足 5 ② 満足 3 ③ どちらでもない 0 ④ 不満 0
 ⑤ 大変不満 0



2、次年度以降も実施してほしいと思いますか？

- ①ぜひ実施して欲しい 5 ②実施して欲しい 3 ③どちらでもない 0
 ④できれば実施して欲しい 0 ⑤実施して欲しく無い 0



3、本事業の成果を以下から選んで下さい。(何度でも選択可)

- | | | | |
|-----------------|---|---------------------|---|
| ①地域の良さを伝える事が出来た | 7 | ②プログラム企画運営を学べた | 5 |
| ③地域内の連携が進んだ | 3 | ④受け入れノウハウ(体制)が習得出来た | 5 |
| ⑤体験プログラムを開発出来た | 5 | ⑥旅行者との交流が深まった | 7 |
| ⑦地域の人たちにも喜んで貰えた | 2 | ⑧自分達も楽しかった | 5 |
| ⑨その他 | 0 | | |

4、地域ノウハウ習得を高める為に、今後どのような改善が必要だと思いますか

事項に満足点を新たにヒアリングし、次項にまとめる。

◆地域ノウハウ習得を高める為の改善策、満足箇所

総数	受入業者名	属性	年齢	改善策	満足箇所
1	第一次産業	男性	28	"ノウハウ"には知識、体験、また、新しい価値の創造と、様々な段階があるように思います。一番の基礎となるのは、地域側の人間が、地域の良さを客観的に理解している事だと考えます。その為にも沖縄を訪れるお客さんを、日本や海外を含めてのお客さんのニーズを的確にターゲットごとに分析し、各々に適切な地域コンテンツをマッチング出来るようにしていく事が重要だ。まずは地域の価値を客観的に知る事が、その第一歩だ。	事前に、沖縄の深い情報を参加者へ伝える事により、現場に来るまでに地域の事をより深く考える時間が持てて地域に対する姿勢が遠く感じられた
2	第三次産業	男性	72	天気は左右されないプログラムも作成する必要がある。 ※当日雨だった為 天気により幾つかのプログラムが選択できるようにしておく。	若い人達が多かったが、サバニと言う文化をして頂いた事、歴史的背景も、現場から直接伝える事が出来た。
3	第一次産業	女性	36	個人や企業を超えた「地域全体の意欲」を視野に入れた活動	民間連携、都市部、田舎の連携 持ち場を活かし、手をつないだ運営がこれからの時代に求められる強みだと思う。
4	第三次産業	女性	31	・地元の人に受け込む事、たくさん話を聞き、なんでも言う事、出来た話がりて自分達の地元について話し合う事。地元の人にも興味を示すようなイベントをしていきたい。 ・もう少し時間を使い、現場を見学できた方が良かったのではないかな。	直接、参加者と講話などを用いてやり取りが出来た事が良かった。
5	第一次産業	男性	52	ハーブ園とバインを食べて育てている鶏の現場を実際にみて欲しかった。ハーブ園の匂いや環境を見れば、鶏の卵がどの様な状態なのか理解出来ると思う。	沖縄のバインを食べて育てている鶏を知らない消費者に説明が出来たことが良かった。
6	第一次産業	男性	37	本土とは違う亜熱帯農業なので、何処まで理解して頂けたか疑問だったので伝わったか否かを確認出来るツールがあれば良かった。 農業の本質と言うより、農家の志を感じて欲しかったので、次回は農業をやっている明確な説明、表現をしたいと思った。	部内では、知る事が出来ない沖縄の農作物を知って頂き何故沖縄が長寿なのか知って頂く事が出来た。 沖縄野菜は見ただけでは調理法もわからない物が多いが今回は、夕食も体験して貰ったので学びと体験で伝える事が出来た。
7	第三次産業	男性	35	今回は1泊の日程だったが、これを2泊、3泊にする事により、地域のプログラムを増やしたい。地域の人の意識も少しずつ変わり、活力にも繋がっていくのではないかなと思う。	沖縄本島でも、何か特別な事が無い限り地元を訪れない場所に来て頂き文化を学んで頂いた。
8	第三次産業	男性	59	天気は左右されないプログラムも作成する必要がある。 ※晴天時、雨天時で同じ満足度得られるプログラムが必要であると感じた。	沖縄に住んでいてもなかなか足を踏み入れない場所へご案内し、自然との共生を感じて頂いた事がとても満足。 また、是非訪れて欲しいと思う。
9	第三次産業	女性	63	地域内の人材を活用してもっと連携を深める。 メニューを増やしたい(三味線、豚、踊りなど)	今回の参加者の皆さんに、喜んで頂いたことが一番の満足。 これからも喜んで頂くメニューや環境作りをしていきたい。
10	第二次産業	男性	35	次はもっと早くから行程や内容を決定してほしい。今回は上手く受入ができたが、また今後は特産品などの開発も実施したい。もっと地元のを外にも伝えてほしい。	泡盛を知っている方は多いが、どの様にして作られているのか、歴史なども含めて理解して頂く事は殆ど無いので地域の歴史と合わせて説明できたのが大きかった。

<アンケートデータまとめ>

特に産業別にアンケート内容に関して大きな差は見られなかった。

全体的に実施内容や、結果には満足するものの、自然を対象にしたコンテンツも多く、当日雨に悩まされたことから、天候や長期型のプラン実施への意欲もみられる。

また、地域のネットワークを今後活用することや、マーケティングの大切さに気づく受入事業者もみられた。また、実施に対しての準備期間がもう少しあればよりよい内容にて実施することが出来たであろう、という前向きな声も聞かれた。

(丸の内朝大学沖縄クラス フィールドワーク参加者アンケート実施報告)

- ◆ 配布日 2010年11月20日
- ◆ 配布先 丸の内朝大学秋学期沖縄クラス受講者、地域自治体
- ◆ 配布数 17 名
- ◆ 回答 17 名

【アンケートの内容】

1、沖縄クラス・フィールドワーク満足度はいかがでしたか？ (1つだけ選んでください)

- ①たいへん満足 ②満足 ③どちらでもない ④不満 ⑤たいへん不満

2、この取り組みを次年度以降も実施してほしいと思いますか？ (1つだけ選んでください)

- ①実施してほしい ②どちらでもない ③実施してほしくない

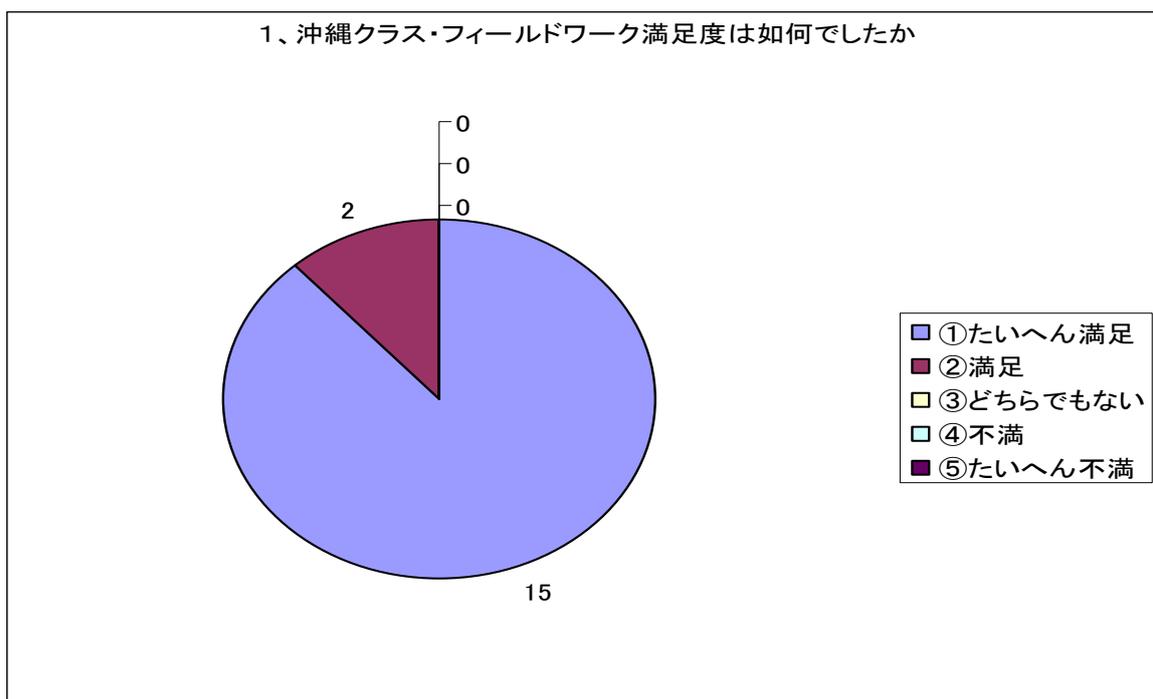
3、この取り組みの良かった点を以下から選んでください？ (該当するものをいくつでも)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 地域の魅力を感じることができた | <input type="checkbox"/> 沖縄で仲間との交流ができた |
| <input type="checkbox"/> プログラム内容が面白かった | <input type="checkbox"/> 受入先の熱意が素晴らしかった |
| <input type="checkbox"/> 東京事前レクチャーが役に立った | <input type="checkbox"/> 全体の運営がスムーズでよかった |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

4、各プログラムの評価をお聞かせください。(それぞれ1つだけ選んでください)

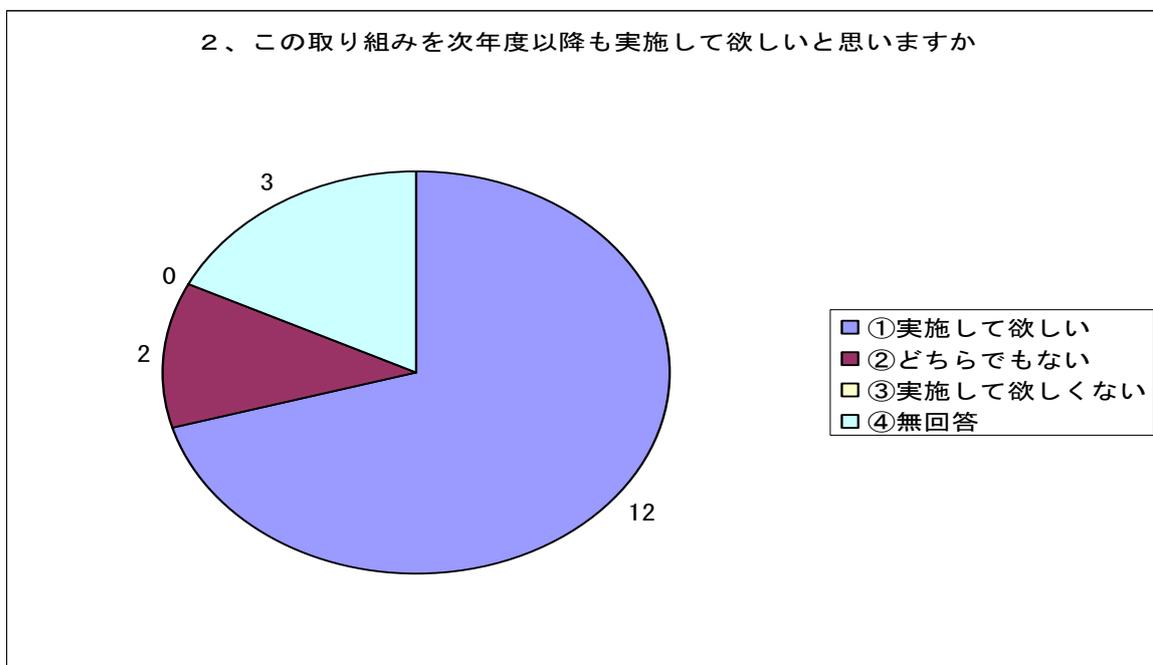
- 糸満海人サバニ漕ぎ体験(海人たちとの触れ合い).....良かった ふつう 良くなかった
- 海ぶどうLABO「海人道」(養殖と海ぶどう丼ランチ).....良かった ふつう 良くなかった
- 北部「やんばるの森」で生物多様性を学ぶ！(講話).....良かった ふつう 良くなかった
- 「東村」地域プロデュース！(講話とカフェタイム).....良かった ふつう 良くなかった
- 施設「奥やんばるの里」に宿泊！(施設環境含め).....良かった ふつう 良くなかった
- 「ゆるる夕食 BBQ」と「ゆんたく会」！(アグーや鍋等).....良かった ふつう 良くなかった
- やんばるの森ナイトツアー！(ヤンバルクイナ体験).....良かった ふつう 良くなかった
- 朝大学プロデュース美味しい朝食！(体験も味も！).....良かった ふつう 良くなかった
- 昔ながらの「奥集落」を散策！(グループ別).....良かった ふつう 良くなかった
- やんばるの森でリバーウォーキング！(グループ別).....良かった ふつう 良くなかった
- 沖縄の長寿食！「笑味の店」を堪能！(散策も).....良かった ふつう 良くなかった
- 名護市民ビーチでみんな泳いだこと！(番外編).....良かった ふつう 良くなかった
- 赤瓦家の泡盛工場「津嘉山酒造所」！(味も説明も).....良かった ふつう 良くなかった

5、その他、ご提言、アドバイス、感想等ご自由にお書きください。



1、沖縄クラス・フィールドワーク満足度は如何でしたか？

- ①たいへん満足 15 ②満足 2 ③どちらでもない 0
 ④不満 0 ⑤たいへん不満 0

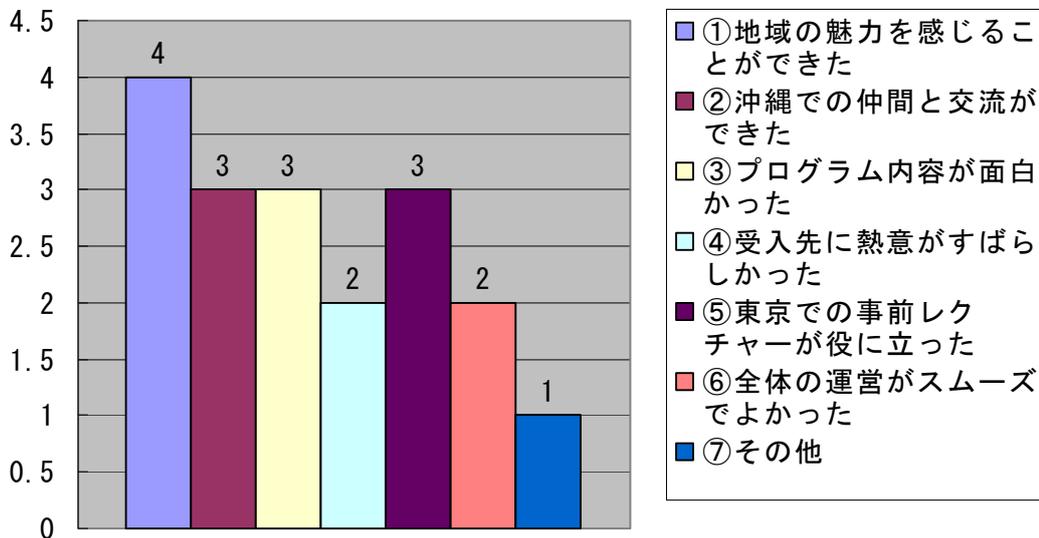


2、この取り組みを次年度以降も実施して欲しいと思いますか

- ①実施して欲しい 12 ②どちらでもない 2 ③実施して欲しくない 0 ④無回答 3

3、この取り組みの良かった点を以下から選んで下さい
(該当するものをいくつでも)

(単位：人)

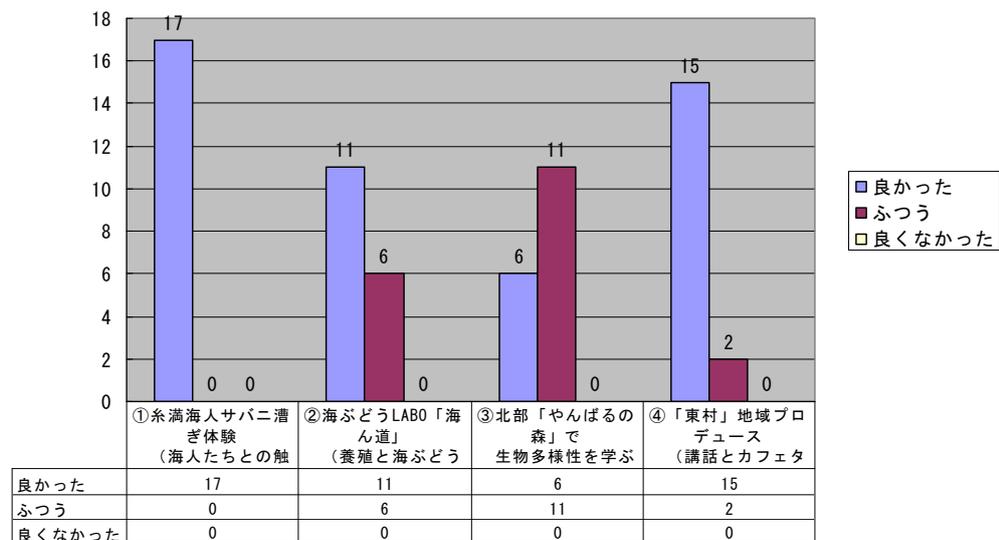


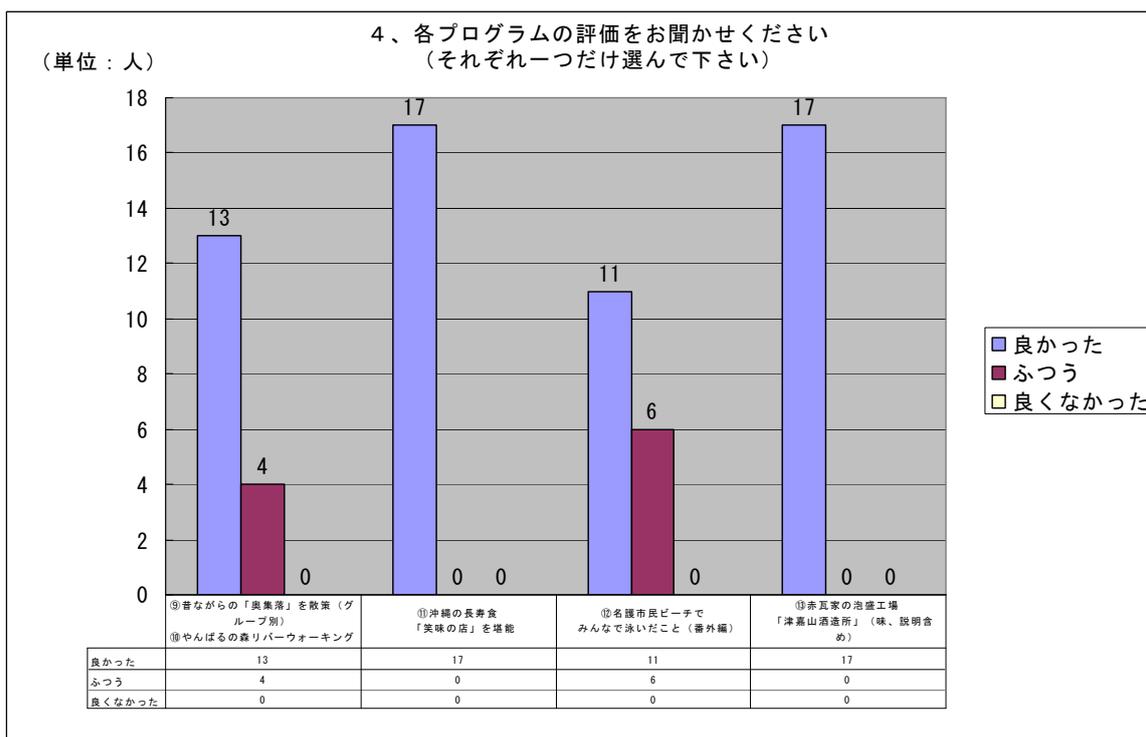
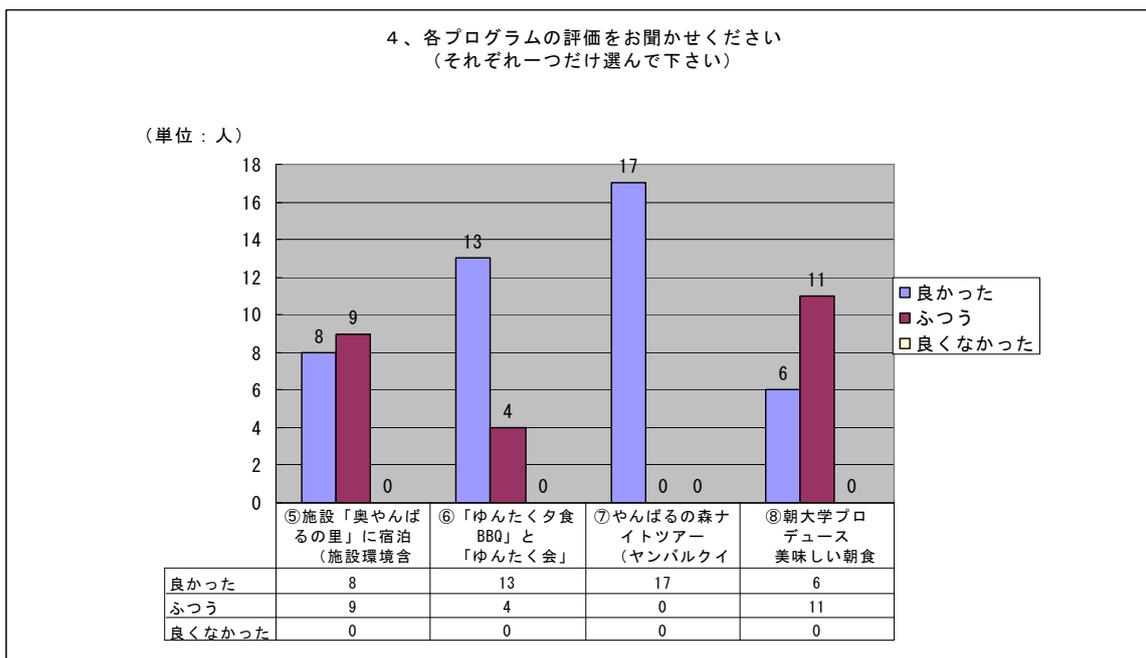
3、この取り組みの良かった点を以下から選んで下さい(該当するものをいくつでも)

- ①地域の魅力を感じることができた 4 ②沖縄での仲間と交流ができた 3
 ③プログラム内容が面白かった 3 ④受入先に熱意がすばらしかった 2
 ⑤東京での事前レクチャーが役に立った 3 ⑥全体の運営がスムーズでよかった 2
 ⑦その他 1

4、各プログラムの評価をお聞かせください
(それぞれ一つだけ選んで下さい)

(単位：人)





4、各プログラムの評価

全体を通してほぼ良かったという意見であったが、「やんばるの森」「朝食」に関しては、普通という厳しい意見も多かった。やんばるの森については、伝え方が淡々としていて、眠くなったというところが普通になった理由である。朝食に関しては、時間がかかってしまい、みんなが一斉に食べられなかった点がふつうになった原因である。

5, その他、ご提言、アドバイス、感想等ご自由にお書きください。
(プログラム全体、受入側体制等)

◆以下に感想をまとめました。	性別
仕事でも活用できるアイデアやネタ？があったように思う。特に体験ものの作り込みが素晴らしかった。また仕事でも沖縄の魅力を伝えていきたいと思う。	女性
今までに何度も沖縄本島には遊びに行っていて、糸満ややんばるについても多少詳しくなっつもりでいたが、今回のフィールドワークに参加して、自分だけではなかなか行けない場所に行ったり、新しい出会いや発見があったり、とても充実した二日間だった。しかも私の様なリピーターだけでなく、沖縄初心者の人達にとっても十分に楽しめるコンテンツが盛り込まれていたと感じた。参加者同士や地元の方達とを繋ぐための色々な仕掛けが準備しており、参加して良かったと思う。	男性
今回の旅で得たことを、地元(新潟)に戻ってどう活かすかが重要だと改めて考えさせられた。今後も旅が終わったあともこのつながりをどう大切に育てて行くかが、本当の意味でこの取り組みの成果を感じる。	男性
「ふつう」としているのは、悪いという意味ではなく、さらに良くなる余地があるという意味である。例えば、「やんばるの森で生物多様性を学ぶ」については、フィールドワークが少しでも加わったらもっと実感が湧いたのではないだろうか。泡盛の蒸留所、前の晩に津嘉山酒造の酒を飲んだ上で行ったら、さらに感動したかもしれないと思った。	男性
十分な情報があり、ゆったり地域を遊ぶことができた。沖縄らしさを十分に理解でき満足している。自然の素晴らしさは予想以上でした。	女性
地域の人たちが元気で、移住している人も地域で頑張っている姿が印象的だった。もっといろいろな体験をしたい！またいきたい。	女性

<アンケートデータ まとめ>

上記アンケートを元に都市生活者の年代別特性が無いか、意見をまとめました。

①学んで行ったことによるメリット

20代後半～30代前半 女性

- ・事前情報があったので、地域の方に親近感が湧きお会いした時に親しみを感じた。
- ・事前に情報を得たので、観光と生活の間を感じる事が出来た。

40代前半 女性

- ・参加者同士だけでなく、地域の人々との繋がりを持つことができた。
今までのイメージから全くイメージしていない沖縄を知れた。
- ・参加者の意識が高く、その価値を現地でも共有する事が出来、良いネットワークになった。

30 代前半 男性

- ・今、最も旬な情報を直接聞く事でより地域に対する思いが強くなった。

②沖縄の現状

20 代後半～30 代前半 女性

- ・沖縄=海 という印象が覆った。沖縄県は、上手く海以外の自然が世間に伝え切れていない。
- ・今回、沖縄の人・地域・自然など多くの魅力と同時に課題も見た様に感じた。

例)大自然は長所だけれども、過疎化で仕事が無いなど。

40 代前半 女性

- ・沖縄の観光情報の充実化を図った方がよいと感じた。地域ごとのカテゴリー化された情報配信が必要である。
- ・一般的に従来の観光では行ったことが無い場所に行くことが出来た。体験メニューは、どの様な人が見てもわかりやすい情報が必要だと感じた。

30 代前半 男性

- ・レアな情報をもっと地域情報を発信する仕組みを作ってはどうか？
- ・沖縄のガイドブックに掲載されていないスポットの楽しみ方など、地域の人が主体となって受入れる仕組みを作りが必要だ。

50 代前半 男性

- ・地域の特産物などその価値や物を広く広める事が必要と感じる。また、「地域の顔」をしっかりと見せる事によって親近感やイメージを湧かせる事が出来るのではないか。



■フィールドワークに参加した他地域の行政関係者の声

今回のフィールドワークには、新潟市、富山市や民間企業担当者も参加し、各自治体の問題を踏まえて、沖縄県がどのようなカリキュラムを作ったのかを体験し、その後、各自治体でも参考にされました。

下記に参加した沖縄県以外の自治体関係者の声をまとめます。

◆財団法人 新潟観光コンベンション協会 企画部 横山裕

今回一番勉強になったことは、地域のキープレイヤーの重要性です。

これまで、自分たちも行政側として各関係事業者さん、当事者のみなさんとの情報をつかんでいますが、沖縄では、それぞれの現場の当事者の皆さんと地域プロデューサーがどんな受け入れをするのかのビジョンをしっかりとシェアしていたことがとても印象に残りました。

丸の内朝大学という都市のプラットフォームが参加者の期待度、ニーズをしっかりと受け止め、地域の窓口であるアーストリップさんが地域側のシーズをしっかりと集めていることで、参加者と、地元の事業者までが全員同じ想いを共有しながらこの企画に参加していたように感じました。

また、海や自然などの沖縄独自のコンテンツだけでなく、生産者との繋がりや、地域の活動をされる人々にフューチャーされていることなどは、沖縄だけでなく、日本中のそれぞれの地域でもできるコンテンツであるにも関わらず、ものすごく魅力的で、独自性のあるコンテンツに感じさせていることもとても参考になりました。

新潟・佐渡が観光を考えて行く上での一つのモデルがここにありました。

◆富山市市役所 農政課 中村圭勇

これまで富山には、立山黒部のアルペンルートという絶対的な観光スポットがあるために、とにかくそれを見せることしかしてこなかった部分がありました。

またガラス工芸やその他のものづくり、冬の海の幸など点ではそれぞれ面白いものがありながらも、それらをどのように繋いでストーリーにすればよいかかわからないまま、それぞれにブランディングをしていました。しかし、今回このプログラムに参加させていただくことで、地域側だけでブランディングをしても参加者の満足度が低いことや、ちゃんと各コンテンツの意味づけや、繋がり、地元の人との交流という細かいフォローがより地域全体を理解してもらうきっかけになることも認識しました。

特に、やんばるでヤンバルクイナを見せる見せ方も、事前に環境省の方のレクチャーがあるからこそ、より貴重性にも気づき、感動も倍以上になるということなど、コンテンツの掛け合わせによる効果だと思いました。地域内だけで観光を作るのではなく、地域外とも一緒に地域を考えるということを学ばせていただきました。また、色々な地域の方や、立場の方が参加されていることで、行政の目線、民間の目線、地元の目線、参加者の目線など同じものを見ながらそれぞれがどう感じるのかも勉強になりました。

4-2. 継続に向けた整理

■ 受入事業者アンケートから見えた課題

全体的に、地域の受入事業者、フィールドワークで訪れた参加者共に、本事業について一定の評価が得られています。その中でも「東京丸の内・丸の内朝大学」と連携した『ニッポン再発見の旅 沖縄クラス』の実施は、地域側にとって非常に印象が強いものとなりました。

また、丸の内朝大学で活躍する講師陣が現地へ幾度足を運び、セミナーやワークショップを通じて沖縄現地の声を拾い、的確なアドバイスをしたことや、具体的な事例を用いて課題解決のヒントを解説することで、受入事業者が自主的な企画や実施手法を考え、提案を返すようになりました。この変化こそが、地域の人材を育成していく上で重要なポイントだと確信いたしております。この中から見えてきたポイントを以下今後の課題と致します。

- ① 地域(事業者)が考える、「地元地域の魅力」とその「サービス手法」が不明確である。
- ② 事業者がそのサービスをだれに向けて実施するか、「ターゲット設定」がわからない。
- ③ 経営的な観点から、継続的に事業を営むために必要な「市場の動向」に対して意識が低い。
- ④ 「情報発信がうまくされていない」。

地域側は、過去様々な国や県の事業から補助金や助成金を活用してモニターツアー等実施してきましたが、単独の事業としてツアー等の取組を実施していこうとしても、コンテンツをまとめる人材や企画運営を実施できる事務局機能がなく、事業を実施しても効果を実感する機会がありませんでした。

一方、本事業のヒアリングでは、地域事業者から「今後も今回の取り組みを継続してほしい」という声が強かったのには、幾つかの理由があると思われます。

まず、丸の内朝大学は「ターゲットが明確」であり、地域間をつないでくれる「地域プロデューサー」がいます。そのことにより、自分たち(地域事業者)も少しずつ物事を理解し、具体的な受入サービスの手法を企画運営できそうだ、という可能性と期待が生まれましたからだと思います。同様に今後六次産業というビジネスにも挑戦していく事業者からも同様の意見を聴くことができました。

本事業を踏まえて、こうした地域の問題点や期待両方の声を継続的に拾い、発展させていくことが必要であり、事業者の意識が変われば、多額の資金がなくても継続的に事業として実施していけ

る可能性があります。

今回の事業を通して構築された地域側のネットワークを活用し、今後もより一層のコミュニケーションを取り発展していくことが必要だと思われます。

また、沖縄県内の各自治体と地域事業者も活動発表したことで、今後の協業の可能性を探ることができ、本事業を通して、より自治体と地域事業者の距離が近くなった様に感じます。

最終的に地域の受入事業者も地域を訪れる都市生活者にも双方にメリットが生まれ、沖縄の地域振興へ寄与できている点も良い成果だと考えます。

■ ノウハウ移転先の地域プロデューサーからの改善策と今後の可能性

◆地域プロデューサー担当:アーストリップ 中村圭一郎

本事業で重要とされていた都市生活者のニーズを「丸の内朝大学」というプラットフォームを活用して得て、地域プロデューサーから地元に繋ぐことによって、県内各エリアで新しい各市町村を超えたマッチングを創出し、調査研究できました。

<改善策と可能性>

改善策

- ・各キーマン(生産者や、集落案内人等)の役割分担をより明確にし、それぞれが役割を把握した上で、最大限のパフォーマンスを発揮できたのではないのでしょうか。
- ・本事業は、地域プロデューサーや丸の内朝大学講師が各キーマンと都市生活者の間に入っているが、今後は、都市生活者に安心して訪れてもらうためには、各キーマンがそれぞれの地域でコンテンツを見直し、見せ方を学ぶ必要性があります。

今後の可能性

- ・沖縄＝海、という方程式が出来上がっているのは、沖縄県だけではないのでしょうか。どこの地方でも絶対的に自信を持っている観光名物があります。しかし、実際には、都市生活者にとって従来の観光より付加価値の高いものが存在しており、その付加価値を伝えていくためには、全てにストーリーをもって説明していく、見せていくことが重要だと思いました。

学ぶ→体験する

このプロセスを踏むことにより、ヤンバルクイナという天然記念物の価値を高め、その希少性から、出会えたことの素晴らしさ、思い出の深さを実感できていました。

ストーリーの必要性を感じ、同様に他の地域でもすぐに活用できる例だと感じました。それでは、どうすれば、ヒットコンテンツが出来るのか。

丸の内朝大学のプロデューサーのコンテンツ選びや作り方のこだわりをまとめました。

- ・ テーマ設定が必ずある
- ・ テーマを全員で共有する
- ・ 常に時代の流れを読み半歩先の提案をする
- ・ 一方的な押し付けにならず、提供者、参加者のニーズとシーズを一致させる
- ・ 硬い内容も柔らかくみせてターゲットを増やす
- ・ コンテンツを選ぶ理由が 3 つ以上ある
- ・ 同じコンテンツでも見せ方、伝え方にこだわる
- ・ 伝道者(ナビゲーター)にこだわる
- ・ 満足いくまで話し合う
- ・ 満足のいくコンテンツが見つかるまで決定しない
- ・ 丸の内朝大学にしかない、という特別感を演出する
- ・ 地域の課題を解決する手法を考える
- ・ 地域資源を価値化するストーリーをつける

■ 朝大学事務局・講師からの事業評価と継続への手掛かり

◆エコツェリア協会 井上奈香

◆丸の内朝大学プロデューサー 古田秘馬

本事業は、これまで丸の内朝大学が取り組んできた、コンテンツ起案、実施、コミュニティを形成、維持、ブランディングをするための必要な過程やプログラム、イベントの定期的な開催等のノウハウを地域に伝える絶好の機会となりました。また今回ノウハウの移転を考える際に、地域側でしっかりと民間と行政との間の調整をしながら「コンテンツの目利き」ができる地域プロデューサーの重要性を改めて痛感しました。現状は、受入事業者(民間)だけでも、行政の担当者だけでも、丸の内朝大学受講生を満足させるツアー内容にも限界があった様に予想されます。

やはり、地域の官民が一体となってコンテンツを考え、実施したからだからこそだと思います。

東京で開催している丸の内朝大学を受講している受講生が、沖縄のプログラムに参加した後の満足度が高かった点も、今回のノウハウ移転の可能性を表しているのではないのでしょうか。

継続のポイントは、やはり、地域のプロデューサーを増やしていくこと、その地域プロデューサーと共に、首都圏と地域側が一緒になり、多種多様なプログラムづくり、受け入れの土台をつくれる環境を整備することが必要だと考えます。本事業では、アーストリップという民間団体がキーパーソンの役割をしっかりとこなしていたことにより、比較的スムーズに受入事業者候補を募ることが出来ました。

また、本事業を通して、アーストリップは今後のフォローコミュニティ醸成の足杖になると思われまます。しかし、地域の受入事業者もアーストリップが既存に独自に作ったネットワークであり、より幅広い業種が一緒になったフォローコミュニティが各地域に生まれ、都市生活者のニーズを把握し、受け入れられる人材を育てる、「地域の人材育成カリキュラム」を作成していく必要があると感じました。

またアーストリップ独自の活動に対して、沖縄における企業とのアライアンス、企業にとってメリットあるプラットフォームの確立ができていないため、より魅力的なプラットフォームづくりが、これからの大きな課題のひとつといえます。

継続と浸透に向けた各課題を以下に記載します。

① キーパーソンの見極めと育成

地域の人材の広域な活用という場合において、そのエリアでの中心になるキーパーソンが存在します。その人材は、行政、民間、NPO などに所属している場合もあるが、いずれの場合にも立場を超えて人々を繋げる人材でなければならないと思います。

多くの地域ではこれまで、地域側でのそれぞれのフィールドの枠を超えることが出来ませんでした。しかし、都市生活者のニーズを考えた場合（特に行政の場合は管轄地域などの制限がある中）、官民の間に立ち、さらに都市生活者の立場に立ち、連動の必要性を伝え、調整をする人材が必要です。これは丸の内朝大学の運営同様に、参加者である都市生活者が一番何を望むか理解し、シーズ（地域側）の考えではなく、ニーズ（参加者）に合わせてコンテンツを作ることと同様です。

また、キーパーソンには、いくつかのパターンがあり、必ずしも、リーダーシップに長けたカリスマ性をもつ人材でなければならないわけではなく、時としては、キーパーソン自体がグループであるケースもあります。例えば、丸の内朝大学のように、様々な企業、行政との繋ぎ役を「丸の内朝大学企画委員会」※という、3つのまちづくり団体だからこそ出来ているケースもありうると考えています

また、キーパーソン、キーグループをしっかりとその地域、そのプロジェクトの中で見極め、長い目で育てていくことも必要です。

さらに、人材育成のためには、他地域からの連携も必要です。定期的に他地域からの評価、依頼を受けていることにより、自分達の地域に対して常に客観的な視点を取得し、反映させていくことができます。同様に各地域の行政、民間事業者も、キーパーソン、キーグループを数多くの他地域とのコミュニケーションの機会を作り、参加させていくことが大切です。

※丸の内朝大学企画委員会

- (構成団体) 大手町丸の内有楽町地区再開発計画推進協議会
 一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツェリア協会)
 特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会

② フォローコミュニティの醸成

上記でキーパーソン、キーグループを育てていながらも、キーパーソンに全てをゆだねていくことは体力面、ネットワーク面でも負担が大きく、途中で潰れてしまうことも多いようです。様々なステータスの人、団体、企業、行政が入れるようなフォローコミュニティの醸成が必要です。

丸の内朝大学でも、大手町、丸の内、有楽町のエリアの企業やスペースをもつ地権者に、企画委員会の運営委員として参画して貰い、様々な企画を地域内で実施しやすい土壌をつくり続けていきます。

本事業の沖縄においても、これまでも多くの業界別のコンソーシアムや団体は多く存在はしているが、実践をベースにした横の繋がりや、サポート体制が機能しているものは見あたらなかったです。特に北部の村規模の地域と、那覇市などの都市部の連携などはほとんど無く、地域を訪れる都市生活者の目線で考えると、本来ならば、連動するストーリー、連携するプログラムも実施されておらず、まだまだ断片的にコンテンツをつくっている状況でした。これらを解消するためにも、キーパーソンなどが中心となり、本事業のように都市生活者の目線で県全体がチームとなり受け入れを行う機会、話し合う機会を定期的に作りながら、ネットワークの強化と、各地域のコンテンツの深堀をしていって欲しいと思います。

③ ローカルエリアの人材教育

地域側にキーパーソン、フォローコミュニティができ、都市生活者の受け入れ体制ができたとしても、実際に観光客や、他地域の企業、他地域プロデューサーが接するのは、地元の現場の方です。(例えば生産者さん)多くの観光地で旅行代理店と行政は意思疎通ができ、方向性の統一はできていても、現場には情報が落ちてこないという状況などが多く、現場が趣旨を把握しておらず、都市生活者をがっかりさせるケースがあります。丸の内朝大学の場合でも、事務局の体制が整い、各講座の講師にも目的や方向性を共有していますが、最後はクラスを受け持つ講師陣がいかにか丸の内朝大学の目的や方向性を理解し、受講生の気持ちになり、しっかりと伝えていかなければ、受講のリピートには繋がっていきません。

本事業では、現地の受入事業者にも事前に幾度と現地を訪れ、丁寧に今回の事業趣旨やこれからの展開案、意義などを伝えられたことにより、一定の成果を生んだと思います。

本事業の様に地域の魅力のある人材を発掘して、コンセプトを共有し、最終ゴールを示しながら一緒に実施していく、という関係性作りも、キーパーソン、フォローコミュニティが定期的に続けていかなくてはならないポイントのひとつです。

④ 企業によるサポート体制づくり

キーパーソン、行政、フォローコミュニティという三位一体になったネットワークが構築できた際にもうひとつ大切なのは、地元企業、大企業の支店などを巻き込んでいくことではないでしょうか。これは単に協賛を貰うという従来の関係ではなく、上記の強固なネットワークの構築ができていることが、実は企業にとっても非常に魅力的なプラットフォームとなっているからです。それらのプラットフォームに参加する参加者をターゲットとする企業にとって、リアルマーケティングや消費者へのダイレクトPRの場になるなど、企業にとってもメリットがあり、参画できるプラットフォームをつくるのが大切です。

丸の内朝大学では、参加者のカテゴリー、志向をアンケートにより明確化、データ化、蓄積し、朝というイメージや企業にとってメインターゲットになりやすい意識の高い受講者像を提示することにより、企業が参画しやすいプラットフォームをつくりながら、多くの企業とのタイアップを成功させています。同様に、本事例においても、今後も継続を目指しターゲットを明確にしていくことで、企業との協業も期待されます。企業との協業は、上記以外にもコンテンツへの集客面、信頼面、告知面など様々な効果が期待されます。

⑤ 都市の役割

本事業を終えて、都市生活者の知恵が地方に移行される必要性を切に感じました。

多くの企業が本社を構え、日本の経済発展を牽引してきた丸の内。この役割を引き続き担いながらも 1000 年さきまで、豊かな環境の中でひとひとがいきいきと働き、暮らすために、このエリアで働く人の意思決定や行動は世界に大きな影響を与えます。一方エネルギーや食糧だけでなく、働く人々も、他の地域に支えられてきたりしているまちでもあります。だからこそ、丸の内には、日本のほかのエリアや世界の持続可能性に大きな責任があり、地域に対しても都市の果たす役割があると考えています。これまでハードに関するノウハウは、移転はあるものの、本事業のように、地域に新しいコミュニティ作り、コンテンツ作り等のソフト機能のノウハウを移転する機会はなく、また、プログラムとして都市部から地域へ実際に人々が訪れるという取り組みは新しい試みでもあり、この経験を元に他地域ともこのような活動を展開することのきっかけともなりました。

都市部でできること、地域側でできること、お互いが役割を明確にし、サポートし合えることが今回の実証実験を通して必要且つ重要なことだと思いました。

本事業では都市部は、ノウハウ移転以外にも地域へ行くきっかけをつくること、そのきっかけの作り

方、実際への行きかた、楽しみ方をしっかりと伝えていくこと、また地域のプレーヤーが東京で様々なネットワークとの出会いの場をつくること等意識変化の啓蒙も同時に行いました。

丸の内朝大学では、引き続き、様々な地域にとってのプラットフォームとして機能していきます。

4-3. 必要な人材とは

本事業を実施するにあたり、同じ事柄でもその「人」によって「伝え方」や「その後のコミュニティ維持」など結果が変わってくるのが分かりました。

また、地方では受入事業者や地域プロデューサーのキャラクター、熱意、感度等に差があり、官民隔てることなく、目的に向かって地域を引っ張る人材が重要な要素のひとつであることが分かりました。今回受入事業者を選ぶ際に、コンテンツの魅力もさることながら、魅力的な人材というのがひとつの選択基準になりました。本事業を通してやはり、地域にとって定常的な人材育成が必要であると判断し、今後地域にとって地域に必要な人材のポイントとは何なのか、下記に記します。

■ 地域に必要な人材のポイント

- ① 地域のために本気でリスクを背負ってでも物事をはじめめる意識が高い。
- ② 地域の隅々にまで、対等な立場でものを言える関係を作り上げている。
- ③ 地域外からくる人々のニーズをしっかりと理解している。
- ④ 地域が伝えるべきコンセプトを明確にできる。
- ⑤ 地域にある資源をそのままでなく、プラス α の付加価値をつけるアイデアをもっている。
- ⑥ 様々な地域の立場の人々から可愛がられ、頼られる存在である。
- ⑦ しっかりと事柄をビジネス化にまで作り上げることができる。
- ⑧ 都市部などへの人的なネットワークを構築しており、様々な考えやチャンスを地元を持ち帰ることができる。
- ⑨ 個人だけのプレーではなく、チームを作り、次世代の育成や企業の目線、NPO の目線、行政の目線、地元の目線、参加者の目線など色々な立場を理解をして巻き込むことができる。
- ⑩ 地域を愛し、苦勞をおしまない。

■ 地域の人材の育て方とは

いきなり上記に当てはまる人材が地域に存在することは稀であり、地域として育てていかなければ地域を代表する人材は輩出できません。

上記のようなマインドを持ち、行動力のある人材を育成するために必要なことを次記に記します。

- ① できるだけ多くの他の地域の成功事例、失敗例などを実地に体験する。
(実際にプロジェクトに参加をしてノウハウや考え方を学ぶ)
- ② 地域の企業や行政が集中的に人材育成を目的としてプロジェクトに同人物を起用する。
- ③ 育てたい人材をサポートしてくれる地域内外のメンターをつける。
- ④ 同じように調整している他地域のプロデューサー候補との交流の場をつくることで、刺激やお互いに助け合うネットワークを構築する。
- ⑤ ボランティアではなく、ビジネスとしてどの部分をフィーとしてもらえるのか？時間売りではなく成果であることをしっかりと理解させ、成果には報酬をしっかりと出すことで、プロ意識が芽生える。
- ⑥ 企画全体に関わらせていくことで、各セクションの人々の見方や考え方を学べるようにする。
- ⑦ 地域外でのイベントなどに地域の窓口として参加してもらうことで、地域の代表である意識を高くさせる。
- ⑧ ゼロから企画をつくり実行して完結するまでを体験してもらう。



4-4. 当事業のまとめ

(当事業を通して育成された人物像)

沖縄の地域プロデューサーは、当事業を通して、行政・住民・観光事業者の意識の違いや活動内容を共有し、丸の内朝大学のプロデューサーからのヒントにより新しい地域の魅力を発見し、常に都市生活者のマーケティングをしながら企画の目利きをすることや、より効果的な伝え方、PR が必要であることが伝わり、その基礎の上に官民の立場を超えて人々を繋げることが必要であることが伝わりました。また、地域プロデューサーが地域側、東京側両方で関係者に係ったことにより、より地域側でスムーズに都市生活者を受け入れることができました。

但し、全体を通し、地域プロデューサーが若手だったこともあり、地域プロデューサー1人で地域全体をまとめることは難しく、継続的な勉強会により、年代別、性別別、地域別に地域プロデューサーを複数育成していく必要があると思われます。

(都市と地方のコミュニティ形成について)

当事業を終えて、都市生活者が沖縄県を訪れる際に本当に魅力的な沖縄を伝えるためには、行政・住民・観光事業者が縦社会ではなく、日頃より「各事業の情報共有」、「魅力的な企画づくりのための勉強会」を実施し、同じ意識の元、フィールドワークという形で受け入れることでコミュニティが作られました。きちんと、Plan、Do、Action、Check と一通りの流れを体験したことがコミュニティを作る上でよい機会となりました。

さらにその後もコミュニティ維持のため定期的に地域側で意見交換や勉強会を実施することで官民一体となり、都市生活者の立場になって受け入れられる、立場を超えた「地域コミュニティ」の定着になると思います。

同様に、都市生活者にも地方の問題提起、体験、問題確認、改善提案、サポートという流れを提供することにより、より地域への愛着を持ち、当事業終了後も継続的にコミュニティを維持することが出来ています。

過去の事例では、地方側、都市側と一方通行で地域活性、人材育成がされていたためになかなかコミュニティが結びつくことが難しかったが、地域プロデューサーという結び役が入ったことにより二つの異なったコミュニティが継続的に繋がり、情報を相互に送受信する関係が出来上がったと思います。

(2010 年 10 月 8 日 参考資料)

丸の内朝大学 presents
『ニッポン再発見の旅シリーズ』
第1弾～沖縄編～

総務省「官民連携型人材育成普及実証研究事業」

2010年10月8日（金） am7時30分～ 1時間

カリキュラム①
「新しい沖縄の旅を提案する」

沖縄民間観光案内所「アーストリップ」
代表 中村圭一郎



丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

本日のレシピ

■ 講義内容の解説と自己紹介ー古田秘馬
受講生からも自己紹介と参加動機、沖縄へのイメージを発表

沖縄へのイメージは？期待することは？

■ 講師紹介・事業紹介ー中村圭一郎
講師の生い立ち～沖縄起業と普段の沖縄ライフを紹介

■ レクチャー「新しい沖縄の旅を提案する」ー中村圭一郎

よく知っているようで、まだ知らない沖縄の魅力を解説
受講者と沖縄のイメージを深めるためのQ&Aを実施

新しい旅というときに、どんな旅のスタイルがあるのか？

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

■ 講師紹介・事業紹介—中村圭一郎 講師の生い立ち～沖縄起業と普段の沖縄ライフを紹介



●自己紹介

中村 圭一郎

神戸出身、沖縄在住12年

沖縄民間観光案内所「アーストリップ」代表
株式会社アンカーリングジャパン代表取締役
観光プロデューサー、沖縄観光コンシェルジュ
地域観光社会学、持続可能な観光専攻

●活動実績（自称 アクティビスト：活動家）

世界30カ国渡航経験、日本縦断5回経験
冬季自転車日本縦断53日間完走（北海道～沖縄）2004年
サバニ帆走航海700km（沖縄～奄美）2004年
NPO「100人で富士登山」2003年～2010年連続10回開催



丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

●事業内容・実績

事業内容—地域観光振興事業、国際人材交流促進事業
ミッション—沖縄が自立し、アジアの中心的存在として繁栄すること。

●歴史・沿革

2002年 那覇を拠点に観光ガイド業を開始
2005年 民間の案内所「アーストリップ」を開設
2008年 民間企業初「ビジットジャパン案内所」認定（日本政府観光局）
2007年 沖縄県 外国人観光客受入促進委員を担当
2008年 内閣府主催「アジア青年の家」国際人材交流事業を担当
同年 沖縄総合事務局 持続可能な観光旅行の調査検討委員を担当
2009年 一般社団法人「沖縄観光の未来を考える会」事務局を担当

●2010年度現在

沖縄観光受入推進会議長
沖縄県 若年層市場開拓調査事業検討委員
沖縄県 離島体験型促進事業推進員

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

■ レクチャー「新しい沖縄の旅を提案する」①

よく知っているようで、まだ知らない沖縄の魅力を解説
受講者と沖縄のイメージを深めるためのQ & Aを実施

新しい旅というときに、どんな旅のスタイルと成果があるのか？

最終的に。。。

「あなただけの“沖縄”を価値化できていること」

プロセスとして。。。

「自分以外の価値観に触れながら、自分自身の経験値を積み重ねること」

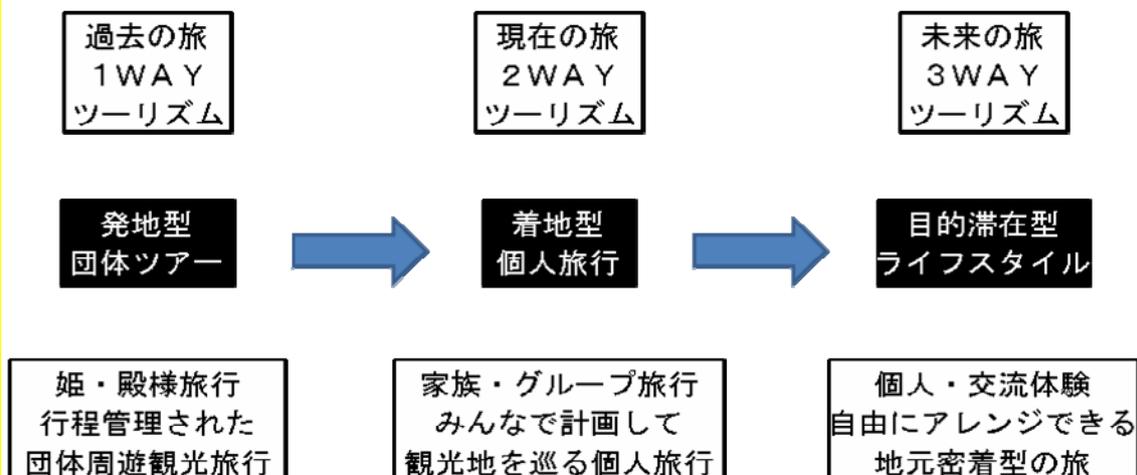
今回の丸の内朝大学では。。。

「従来のツアーや個人旅行では経験できない、興味の視点や感覚、
また地域や人々との出会い、自分とのつながりを知り学ぶことができる」

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

■ 「新しい沖縄の旅を提案する」②

過去から未来へ、旅行の価値観は、常に変化している



丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

これからの時代が求める観光旅行の 形とは、待つ・見る観光ではなく

価値観の多様化に対応できる観光地やリゾートが求められ
その地域オリジナルの価値を訪れる旅人と交流できること

またお互いが意識高くその価値を交換し続けることで新たな創
造力を生み出し人生という豊かさを育む機会となることこそが

これからのツーリズムです

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

沖縄Q&A

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 1

沖縄県糸満市にある海人文化で、世界初の発明があります。
海洋民族ならではの民具であり、現在も作りはかわっているものの、ス
ポーツでも使用されているものとは何でしょう？

ヒント：祝勝会などでも使われます

私も3つくらい持っています。

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

沖縄Q&A

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 3

沖縄県本島北部「やんばるの森」に生息する
「ヤンバルクイナ」という飛べない鳥が絶滅の危機にあります
その減少している理由とは？何でしょうか？

ヒント：飛べない鳥であること
へき地でも人間が住みやすくなったこと

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

沖縄Q&A

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 4

最近沖縄でも古民家を再利用・活用しようという取り組み
が盛んに行われてきましたが、沖縄の古民家（赤瓦家）の
特徴を3つ教えてください。

ヒント：昔沖縄は琉球王国だった
琉球諸島は亜熱帯気候

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

沖縄Q&A

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 5

沖縄で最もポピュラーな食べ物は、チャンプルーや沖縄そばですが、昔も今も愛されている沖縄ソウルフードとその理由を教えてください。

ヒント：沖縄の歴史的背景を考えて。

女性の平均寿命は全国一世界一

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム① 「新しい沖縄の旅を提案する」

次回 15 日のレクチャーで

琉球王国から沖縄県が経験した歴史的な出来事から、現在の基地問題や国境問題、またアジアの中心として栄えていた時代のお話などを、分かりやすく生活の中から見えてくる出来事としてレクチャーしていきます。

沖縄民間観光案内所「アーストリップ」
<http://www.earthtrip.jp/Index.html>

中村圭一郎
Mail kei@earthtrip.jp

(2010年10月15日 参考資料)

総務省平成22年度官民連携型人材育成普及実証研究事業

 丸の内朝大学

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～

2010年10月15日（金） am7時30分～ 1時間

カリキュラム②

「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

沖縄民間観光案内所「アーストリップ」

代表 中村圭一郎



丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

本日のレシピ

■ 前回の振り返りー古田秘馬

10月8日レクチャー「新しい沖縄の旅を提案する」

沖縄へのイメージは？期待することは？

新しい旅というときに、どんな旅のスタイルがあるのか？

■ レクチャー②「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

第2段 よく知っているようで、まだ知らない沖縄の魅力を解説

受講者と沖縄のイメージを深めるためのQ&Aを実施

沖縄での「旅の定番」こそ、面白い意外性が隠されている。。。

■ 11月沖縄コンテンツ紹介ー中村圭一郎

沖縄フィールドワーク（2日間）紹介、見どころ解説

きっと「あなただけの“沖縄”を価値化できている」はず。。。

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

■ レクチャー「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」①

この旅で目指す、本当の沖縄を知ることとは？
また本当に沖縄が求める旅人とは？

イメージ（自分）の奥にある、
創造性に響く、メッセージを聴くこと

すなわち地域の人々や自然生物の立場に立って、
物事を理解し、受け止めていくことが大切です。

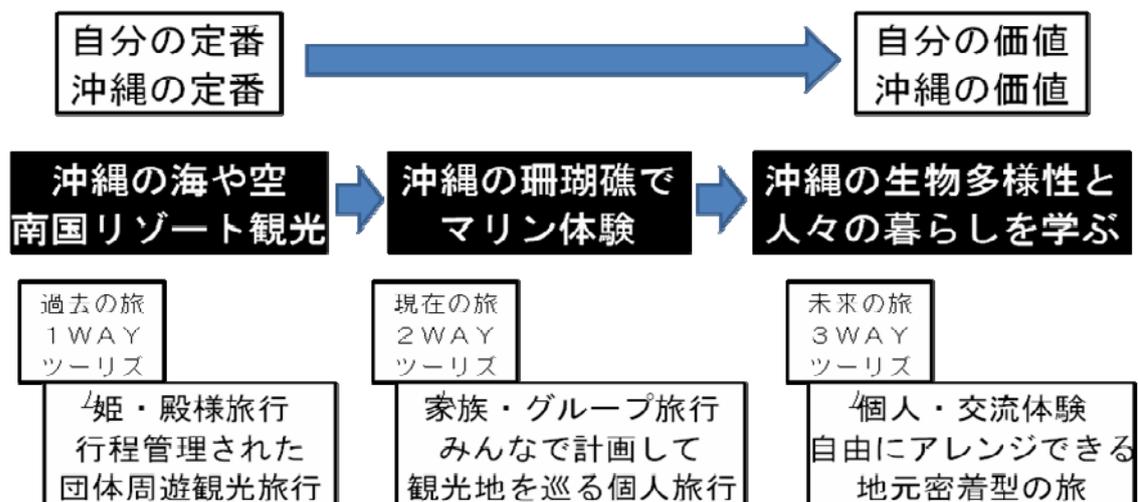
自身や仲間の気づき（発見・再発見）を、
お互いの理解として深く交流していくこと

2WAYでもない、3WAY・4WAYの新しい旅を目指し、
積極的に仲間や人々と交流することで信頼関係を築いていく。

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

■ レクチャー「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」②

第2段 よく知っているようで、まだ知らない沖縄の魅力を解説
受講者と沖縄のイメージを深めるためのQ&Aを実施
沖縄での「旅の定番」こそ、面白い意外性が隠されている。。。



丸の内朝人学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

沖縄Q&A
2nd SESSION

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 1 沖縄の土地と姓名に関する問題です。
沖縄には珍しく読みづらい氏名が多いとされていますが、
以下の苗字を読んでみてください！

比嘉 金城 上原 大城 国頭 東江 謝花 玉城
喜屋武 瑞慶覧 仲村渠 手登根 我如古 平安名 保栄茂

A 1 ひが、きんじょう、うえはら、おおしろ、くにがみ、あがりえ、
じゃはな、たましろ、たまき、たまぐすく、きゃん、ずけらん、なか
んだかり、てどこん、がねこ、へんな、びん

丸の内朝人学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

沖縄Q&A
2nd SESSION

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 2 沖縄のお酒・泡盛に関する問題です。
沖縄の泡盛は昔「粟あわ」から作られたことから名づけられた
という江戸時代の書物に残されています。
さて、古酒（クース）は製造後何年からのものをさしますか？
また、泡盛を飲み楽しむ宮古島で生まれた文化とは何？

ヒント：古酒の値段は、通常 2 倍から 5 倍程度

A 2 古酒（クース）は、3年以降をいいます。
宮古島伝統の文化は、オトーリといいます。

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

沖縄Q&A
2nd SESSION

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 3 沖縄の暮らしについての問題です。
琉球諸島の地盤は、珊瑚礁が隆起してできた琉球石灰岩でできており、昔から人々も暮らしの中で様々な用途で活用されてきました。
さて、どんなものに利活用していたのでしょうか？

ヒント：文化的、暮らしの一部でもあります。

A 3 石畳の道や屋敷の塀、またお城の城壁などにも使用。
また、現在はインテリア雑貨や家具にも利用。

丸の内朝大学 presents 『ニッポン再発見の旅シリーズ』 第1弾～沖縄編～
カリキュラム② 「今知ってほしい、本当の沖縄のこと」

沖縄Q&A
3rd SESSION

沖縄に残る地域遺産を探る旅

Q 1 沖縄の自然地理に関する質問です。
北緯24度線～28度線にかかる東シナ海と太平洋に浮かぶ島々からなる沖縄特有の地理的条件で、どんな特徴があると考えられますか？

(少し質問があいまいですが色々想像してみても教えてください)

答えるポイント：

日本のようで日本でない、アジアのようでアジアでもない沖縄。